

< 参考資料 >

## (参考1) 人材を引きつける九州の「地域力」

九州においては、所得や地域内総生産などの経済的な指標でものを見た場合に、東京と比較して低い水準にあることは否めない。しかしながら、経済的な指標だけでは図ることのできない地域全体の総合力という視点で九州を評価した場合に、九州の魅力を再発見することが可能になると考えられる。そして、こうした生活環境などのトータルで見た地域力が優れているとすれば、域外からの優秀な人材の確保、UIJ ターンの促進にもつなげることが可能になると考えられる。

参考として、九州における生活環境に関連する指標の分析などから、九州の地域力の実態を整理する。

### 九州にみる生活環境の特徴

全国に先んじて、高齢者(65歳人口)割合が3割を超えるといわれている九州であるが、高齢者が長く働きながら生活していく地域として九州を考えた時に、どのような特徴を持つか把握したい。

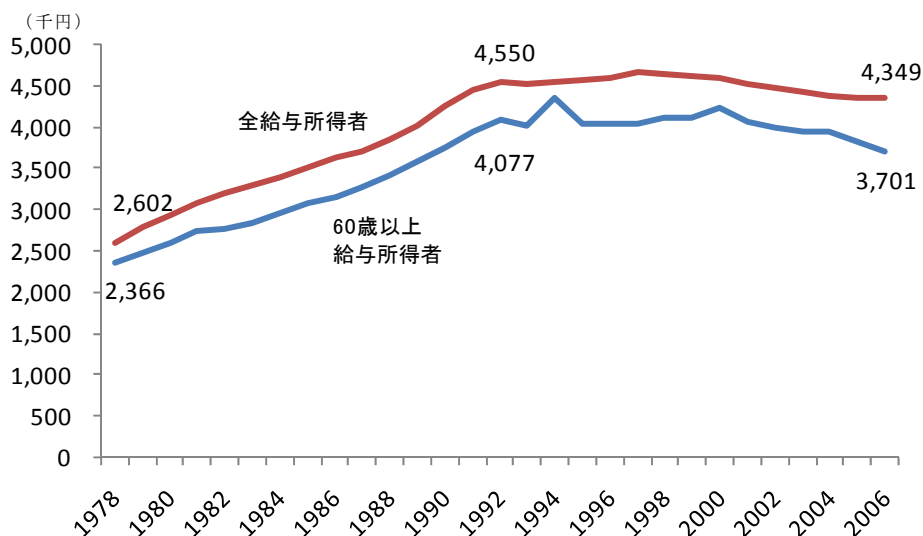
まず、九州における平均給与額は、2006年実績で3,673千円となっており、全国比84.5%、東京比71.9%である。他地域と比較して高い給与額ではないことがわかる。また、全給与所得者と60歳以上給与所得者とは2006年時点で15%程度の差があることを考えると、九州における60歳以上給与所得者の平均給与額は3,100千円程度となる。

図表 参考-1 国税局別の給与所得者数・給与額(平成18年)

	給与所得者数 人	給与					
		総額		平均		賞与	
		百万円	千円	百万円	千円	百万円	千円
全国	44,845,126	195,015,303	4,349	164,871,415	3,676	30,143,887	672
東京	13,627,296	69,660,675	5,112	57,567,652	4,224	12,093,023	887
九州	3,710,855	13,629,688	3,673	11,736,787	3,163	1,892,902	510
福岡	2,136,919	7,960,283	3,725	6,842,346	3,202	1,117,938	523
熊本	1,573,936	5,669,405	3,602	4,894,441	3,110	774,964	492

注) 1年を通じて勤務した給与所得者を対象とする  
資料) 国税庁「民間給与実態統計調査」(平成18年分)

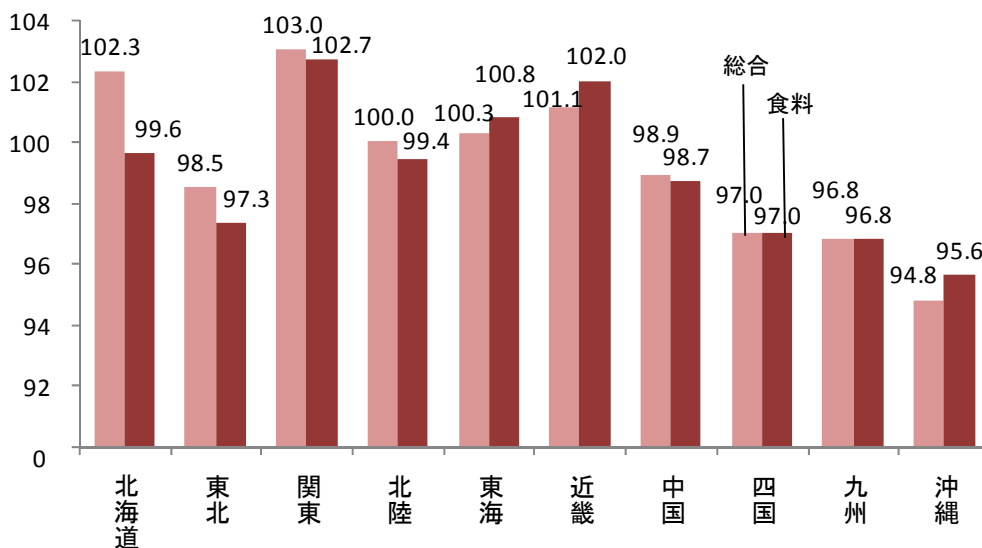
図表 参考－2 平均給与額（年額）の推移



注) 1年を通じて勤務した給与所得者を対象とする  
資料) 国税庁「民間給与実態統計調査」

平均給与が低い一方で、物価についてみると、全国を100とした時の九州の平均消費者物価地域差指数は96.8であり、日常的に必要な食料についても同程度の差がある。全地域の指数を見渡して九州の物価は比較的低価で落ち着いていることがわかる。

図表 参考－3 平均消費者物価地域差指数（2007年）

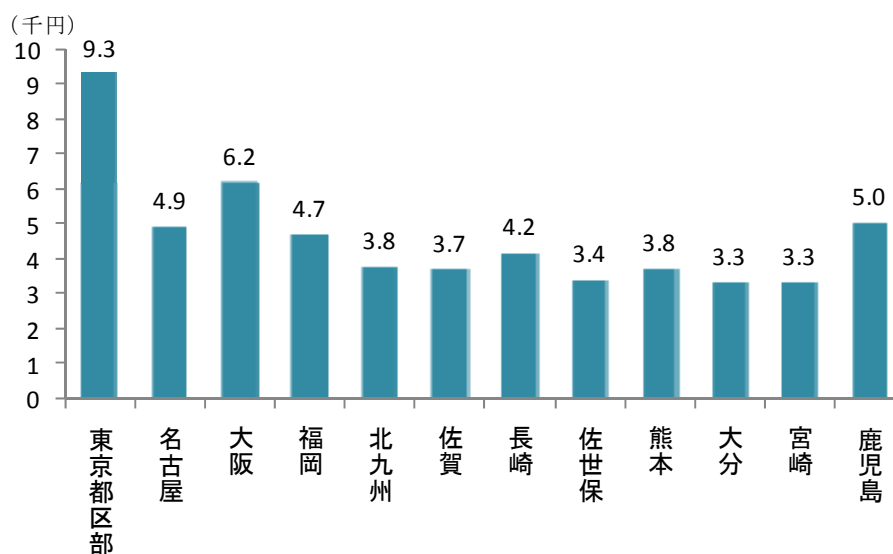


注) 1.総合は持家の帰属家賃を除いた指数  
2.全国=100とする  
資料) 総務省「消費者物価指数年報」

また、1カ月あたりの民営家賃額を比較すると、東京都区部に比べて、九州は約半分程度の金額に収まっている。このように給与が少ない分、九州では物価が相対的に安くなっており、一定程度の生活レベルを維持できるものと考えられる。

しかし、平均給与額の差と物価差が単純に同率でないことを考えると、物価だけをみて、暮らしやすい地域であるということは難しい。そこで、次に給与、物価などの経済的側面では測れない九州の生活環境についてふれる。

図表 参考－4 民営家賃の比較（2007年平均）

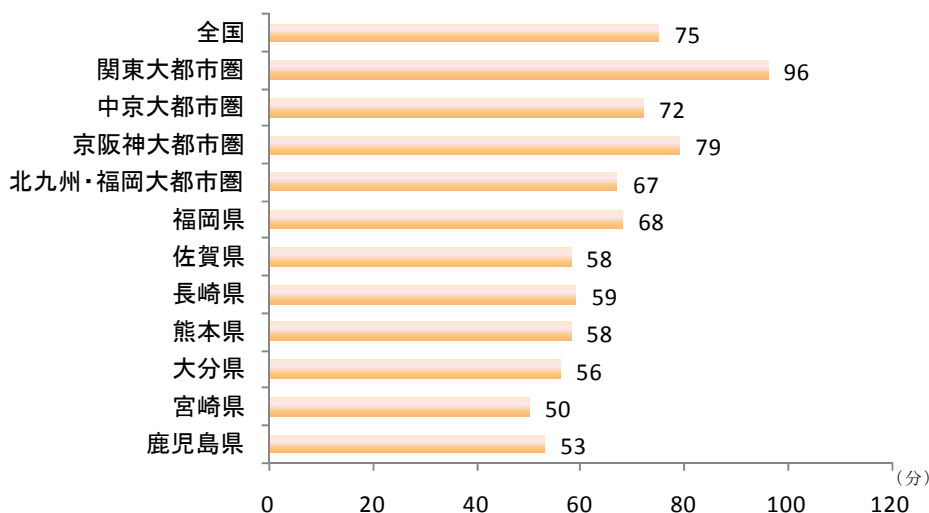


注) 1. 1カ月、3.3㎡あたりの家賃  
 2. 県庁所在地および人口15万人以上の都市を対象とする  
 資料) 総務省「小売物価統計調査」

### 職住接近という九州の強み

九州の生活環境の特徴の1つとして、職住接近という状況がある。社会生活基本調査によると、全国平均では往復75分、関東大都市圏では96分もの時間をかけて通勤・通学している。次に、九州各県をみると、最も時間がかかっている福岡県でも全国を下回る68分、他県については50分台に収まっている。関東大都市圏と九州各県との所要時間差は、片道14～23分程度ではあるが、関東大都市圏の在住者は、1カ月で9時間以上、年間で112時間以上もの時間を余計に通勤・通学にかけていることになる。

図表 参考－5 通勤・通学（往復）の所要時間



注) 有業者で実際に行動した者の平均所要時間  
資料) 総務省「社会生活基本調査」(2006年)

九州よりも関東大都市圏では電車・バスなどの公共交通網が発達しているにもかかわらず、これだけの所要時間差が生まれている背景には、職場と住居の距離や道路の混雑度などの差があるものと考えられる。

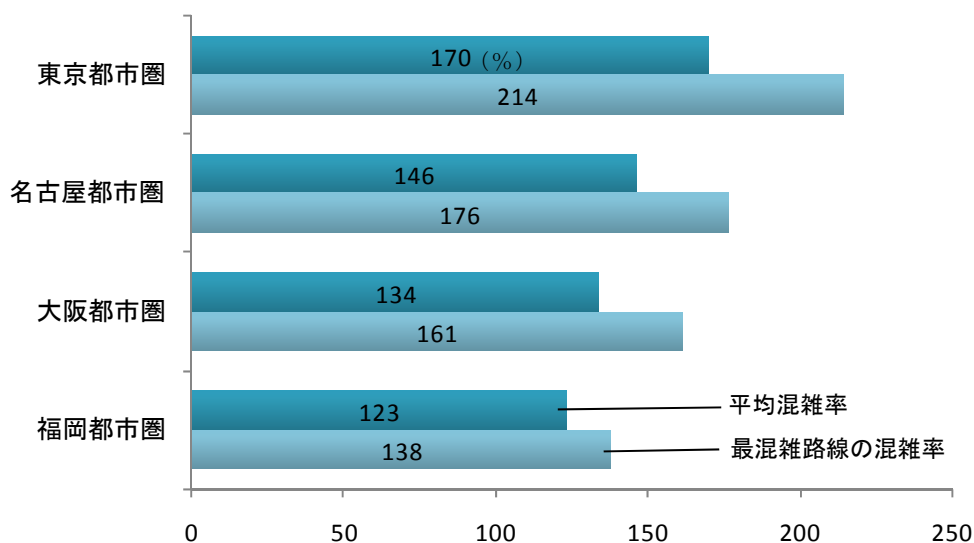
職住接近のメリットを考える時には、通勤・通学の所要時間も重要であるが、どんな状態で移動するかも生活のしやすさを判断する時に大切な要因となる。なぜなら、長時間移動する場合でも、混雑していない状況であれば読書やインターネット、パソコン操作などが可能で、長時間移動を負担に感じないケースがあるためである。

各都市圏における主要鉄道路線の混雑率をみると、まず、東京都市圏では、通勤・通学時間帯にあたる最混雑時間帯において、最混雑路線の混雑率が214%に達していることがわかる。

200%以上の混雑率とは、週刊誌程度なら読めるものの、体がふれあい、相当の圧迫感を感じるような車中の込み具合である。所要時間の長時間化とともに、混雑率の高さは、車中での活動の制限およびストレス形成に繋がるものと懸念される。

一方、九州で最も人口が集中している福岡都市圏では、最混雑路線でも138%の混雑率となっており、国土交通省が推進している混雑率150%以内の基準を満たしている。

図表 参考－6 最混雑時間帯における主要路線混雑率（平成 17 年度）



注) 1.対象路線：東京都市圏 31 路線、名古屋都市圏 8 路線、大阪都市圏 20 路線、福岡都市圏 5 路線

2.混雑度の目安

100%－客員乗車（座席につくか吊革につかまるかドア付近の柱につかまることができる）

150%－肩がふれあう程度で、新聞は楽に読める

180%－体がふれあうが、新聞は読める

200%－体がふれあい相当圧迫感があるが、週刊誌程度ならなんとか読める

250%－電車がゆれるたびに体が斜めになって身動きできず、手も動かせない

資料) 国土交通省「三大都市圏における都市鉄道主要路線の混雑率」

九州運輸局ホームページ（福岡都市圏時差通勤通学対策連絡会キャンペーン周知資料）

以上のことから、九州は、所要時間が比較的短く、かつ移動する電車内も混雑がそれほどひどくないため、通勤・通学における負担が少ないと考えられる。特に、高齢者世代にとっては重要な生活の要素といえる。

### 都市公園の充実

大都市圏と比較した際の九州の特徴として、人口一人当たりの都市公園面積がほとんどの県で全国平均を上回っていることが挙げられる。

全国平均で1人当たり公園面積が9.3㎡であるが、九州では、福岡県（政令市を除く）、福岡市を除いて、9.3㎡以上の公園面積を有している。また、東京特別区や大阪市と比較をするとその違いは顕著である。

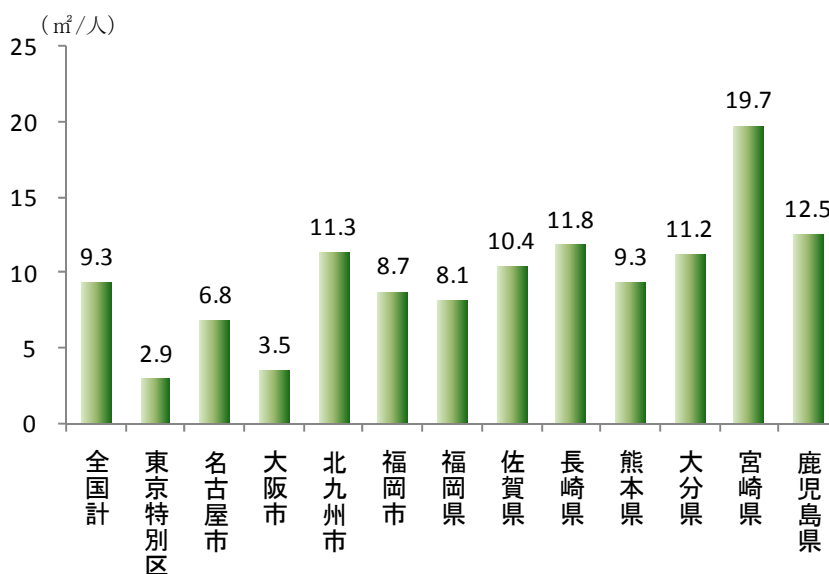
都市公園は、都市景観の形成や都市の防災空間としての役割だけでなく、高齢者や子どもなど地域住民のレクリエーション・コミュニティ活動の場となっており、働くだけでなく、休息時間の過ごし方や地域活動の充実なども考えるならば、公園や緑地は大事な空間となってくる。

図表 参考－7 一人当たり都市公園等面積（平成19年3月末現在）

	箇所数	都市公園等 面積 (ha)	一人当たり 公園面積 (㎡/人)
全国計	93,399	111,307	9.3
東京特別区	3,676	2,511	2.9
名古屋市	1,365	1,513	6.8
大阪市	963	929	3.5
北九州市	1,600	1,111	11.3
福岡市	1,556	1,227	8.7
福岡県	2,237	1,947	8.1
佐賀県	218	741	10.4
長崎県	1,112	1,456	11.8
熊本県	1,416	1,330	9.3
大分県	964	1,119	11.2
宮崎県	886	1,902	19.7
鹿児島県	1,139	1,798	12.5

注) 1.都市公園とは、都市計画施設として都市計画決定された公園または緑地、および都市計画区域内で設置される公園または緑地のことをいう  
 2.特定地区公園（カントリーパーク）を含む  
 3.都道府県の数値は、政令市の数値を含まない  
 資料) 国土交通省ホームページ

図表 参考－8 一人当たり都市公園等面積（平成19年3月末現在）



注) 1.都市公園とは、都市計画施設として都市計画決定された公園または緑地、および都市計画区域内で設置される公園または緑地のことをいう  
 2.特定地区公園（カントリーパーク）を含む  
 3.都道府県の数値は、政令市の数値を含まない  
 資料) 国土交通省ホームページ

### 魅力ある九州地域の形成に向けて

平均給与額だけを見ると、大都市圏への定住を考える傾向があることは当然であるが、中高年者が長い目で生活していく場所としての適性を考える場合、収支面とともに地域の生活環境も考える必要がある。

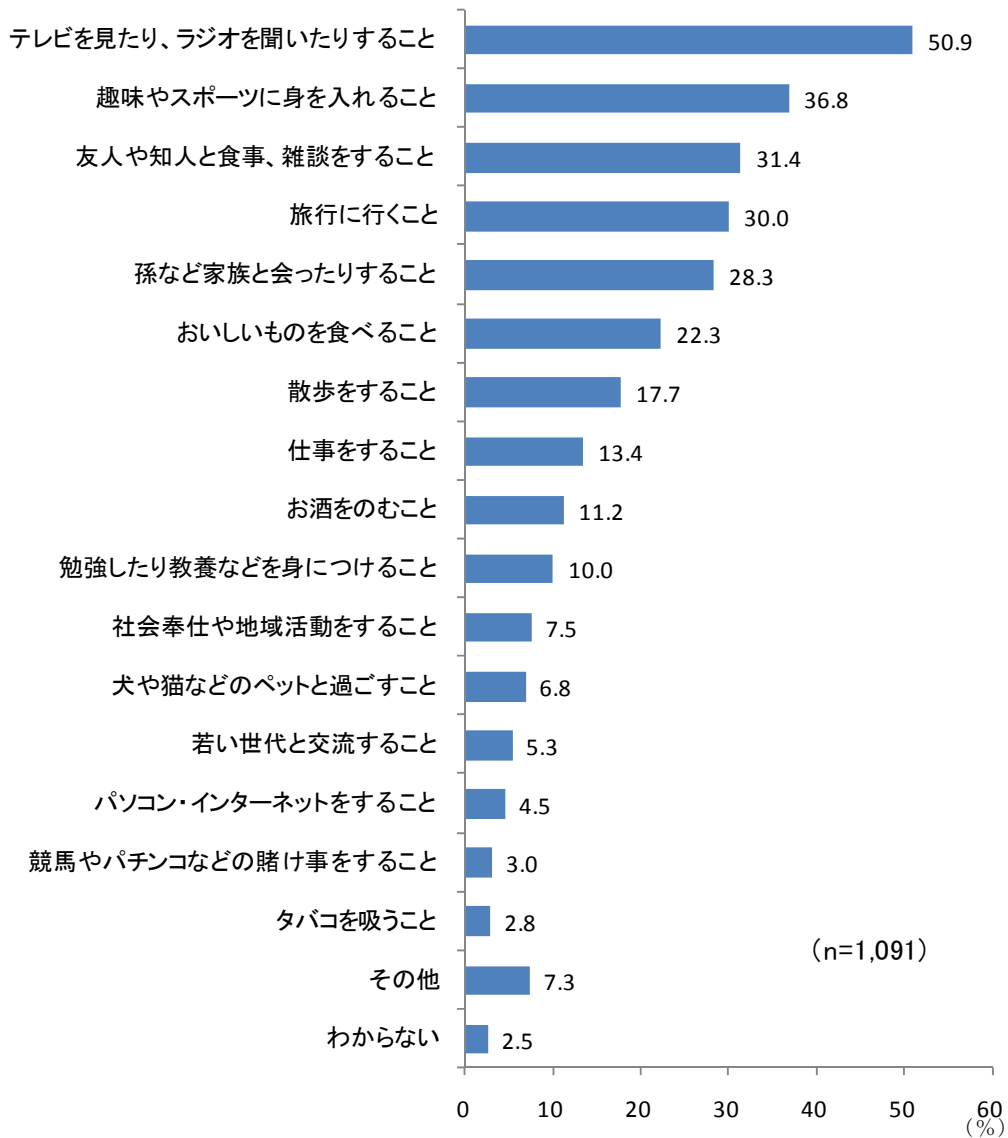
まず、少子化・人口減少が全国に先駆けて進む九州では、高齢者人材の活用が進むことが考えられるため、収入を得るために長く働き続けることを考えるならば、九州定住・移住という選択肢も考えられる。

また、働かなくなり年金等収入のみとなった場合、収入自体が地域によって大きく変わらないのであれば、家賃や食料品が比較的安い地域を居住地とすることで、日常的な支出を抑え、経済的な余裕を生み出すことにもなる。

さらに、高齢者が考える日常生活での楽しみについて、九州においても問題なく取り組むことができれば、居住地としての九州の魅力も向上するものと考えられる。



図表 参考-9 高齢者の生活の中での楽しみ（複数回答）



注) 一般世帯に属する 65 歳以上を対象

資料) 内閣府「世帯類型別に応じた高齢者の生活実態等に関する意識調査結果」(平成 17 年度)

今後、高齢者にとっても魅力的な九州地域を創造していくには、高齢者が希望するまで現役で働き続けられる環境を整えつつ、生活での利便性や安心感などを提供し、余暇時間の有意義な過ごし方などを提案していくことが重要となってくる。

## (参考 2) 首都圏在住者の U・J ターン意向

昭和 30～40 年代の高度成長期以降、九州からは首都圏へ大量の人材が流出した。その後、流出ペースが縮小したものの、九州から首都圏への人材流出基調は続いている。

首都圏で活躍する九州出身のシニア人材を、九州で就業あるいは地域づくりへ参加させることができれば、地域企業の競争力確保、地域経済の活性化につながる可能性がある。

在京の「福岡県人会」と「宮崎県人会」の会員にアンケート調査を実施するとともに、在京福岡県出身者へのグループインタビューを通じて、首都圏在住者の U・J ターンの意向を把握した。

### 1 アンケート調査

#### (1) アンケート調査の方法と回収状況

アンケートは、首都圏在住の福岡県出身者と宮崎県出身者に対して実施した。

東京の福岡県人会、宮崎県人会を通じて、アンケート票を郵送・回収した。回収状況は以下のとおり。

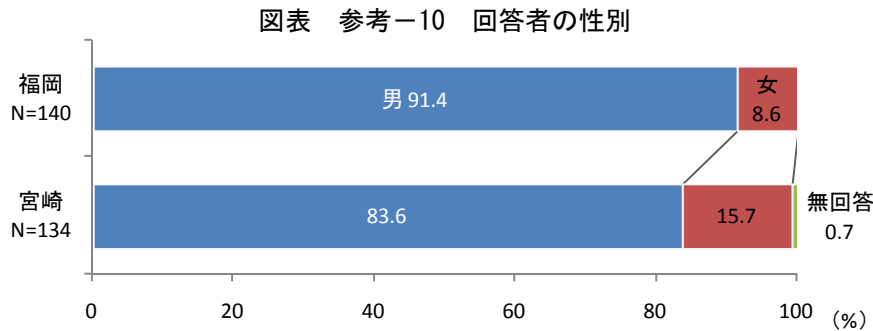
アンケート名	「九州出身の首都圏在住者の U・J ターン意向アンケート」
福岡県人会	12 月上旬発送、12 月 22 日〆切。 発送数 1,000 件、有効回答数 140 件（回収率 14.0%）
宮崎県人会	11 月 28 日発送、12 月 22 日〆切。 発送数 500 件、有効回答数 134 件（回収率 26.8%）

## (2) アンケート集計結果

### Q1. 回答者属性

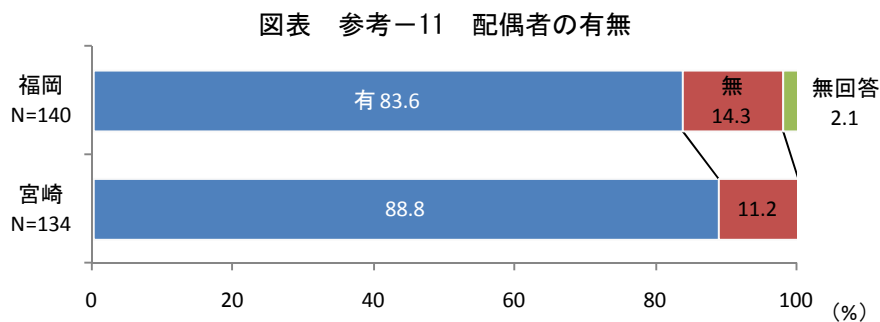
#### ① 性別

回答者は、福岡県出身者、宮崎県出身者とも男性が中心である。



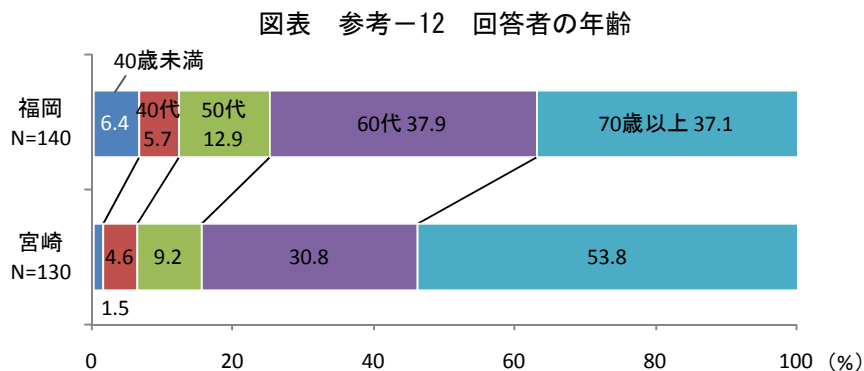
#### ② 配偶者

福岡県出身者、宮崎県出身者とも「配偶者あり」が80%以上である。



#### ③ 年齢

回答者の年齢は、福岡県出身者では60代が37.9%、70代以上が37.1%で、60歳以上の高齢者が75.0%。宮崎県出身者では70代以上が52.2%、60代が29.9%で、60歳以上の高齢者が82.1%であった。宮崎県出身者の方が高齢者の比率が高い。

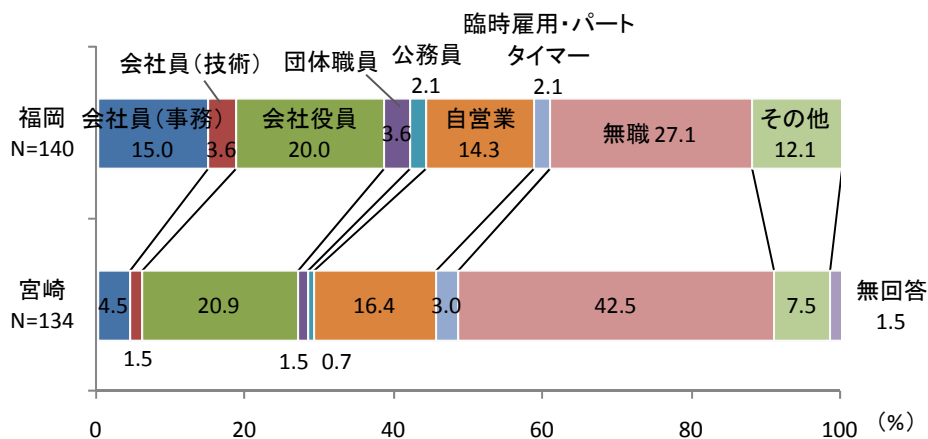


#### ④ 職業

回答者の職業は、「無職」が最多で福岡県出身者 27.1%、宮崎県出身者 42.5%である。高齢者の比率が高い宮崎県出身者の方が無職の比率が高い。「無職」、「その他」、「無回答」を除く比率（働いている比率）は、福岡県出身者が 60.8%、宮崎県出身者が 48.5%である。

働いている人の職業は、両県出身者とも「会社役員」が約 20%と多く、「自営業」も約 15%おり、福岡県では「会社員」や「団体職員」も比較的多い。

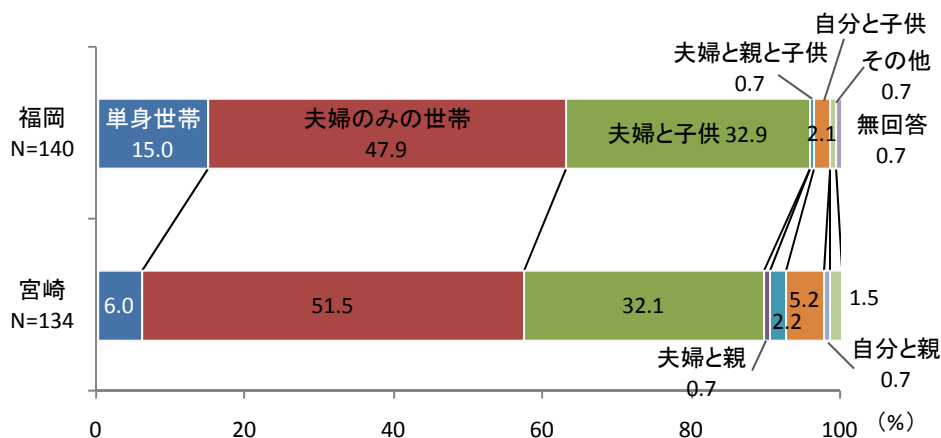
図表 参考-13 回答者の職業



#### ⑤ 世帯

両県出身者とも「夫婦のみの世帯」が約 50%、「夫婦と子供」の世帯が 32%前後で、この 2 種で 80%以上を占める。回答者には、子育てが終了した世帯が比較的多いとみられる。

図表 参考-14 回答者の世帯構成

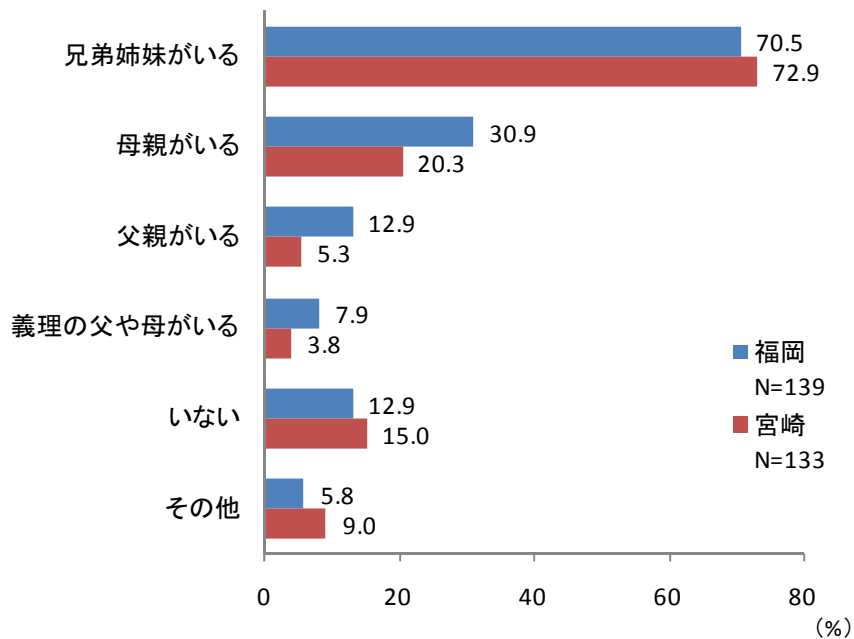




#### Q 4. 九州にいる家族（複数回答）

福岡県出身者、宮崎県出身者とも、九州には「兄弟姉妹がいる」が約70%と多数を占めた。九州に親族が全く「いない」のは15%未満にとどまり、九州には何らかの血縁者がいる人が多い。

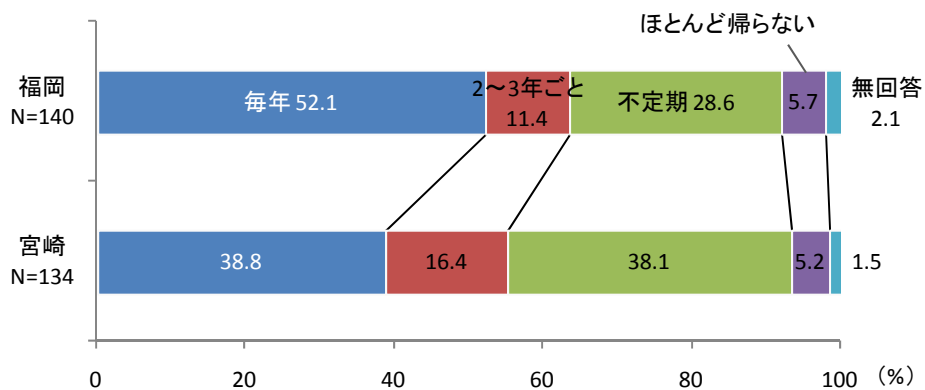
図表 参考-17 九州にいる家族の状況



#### Q 5. 帰省頻度

「毎年」が福岡県出身者52.1%、宮崎県出身者38.8%で最多である。「ほとんど帰らない」は5%程度と少数で、九州とのつながりを持っている人が多い。

図表 参考-18 帰省の頻度

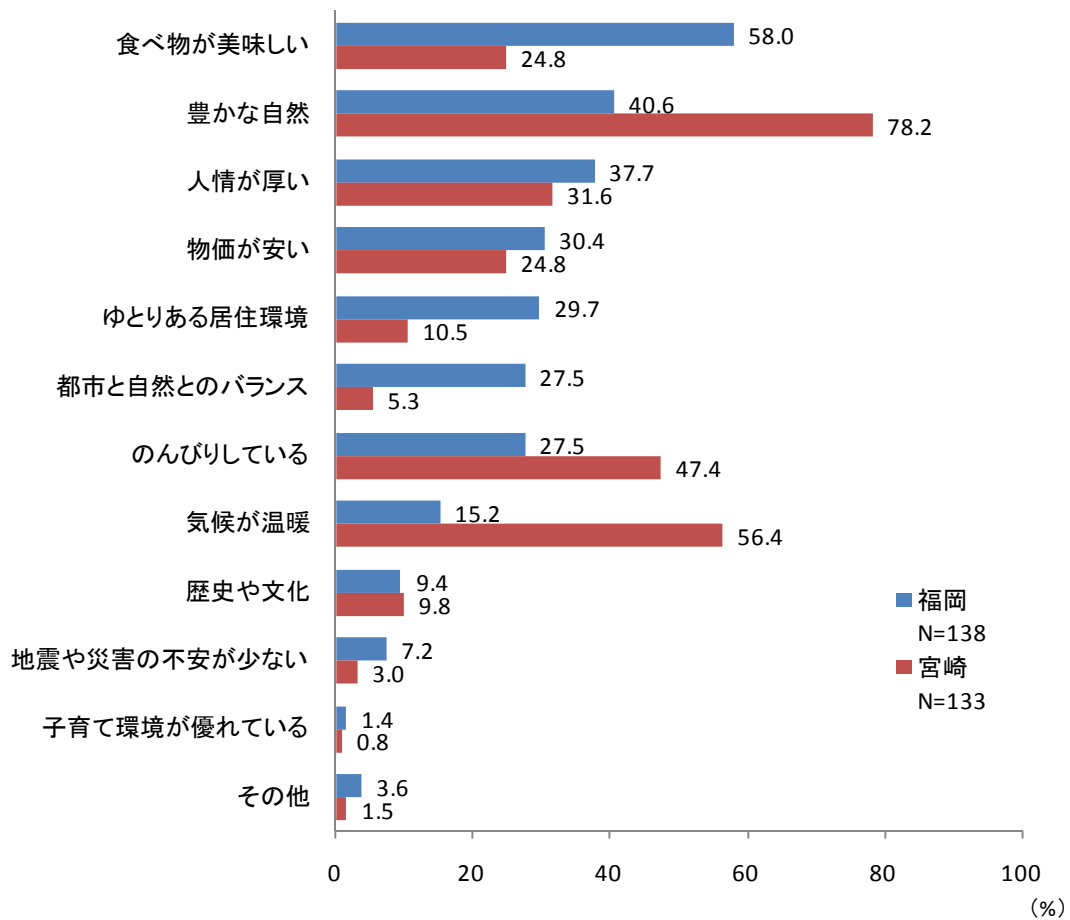


Q 6. 九州の魅力（複数回答）

福岡県出身者は、「食べ物が美味しい」が58.0%と最多で、以下「豊かな自然」、「人情が厚い」、「物価が安い」、「ゆとりある居住環境」、「都市と自然とのバランス」、「のんびりしている」などが比較的僅差で続く。

宮崎県出身者は、「豊かな自然」が78.2%で突出し、「気候が温暖」、「のんびりしている」が50%前後で、この3つに集中している。

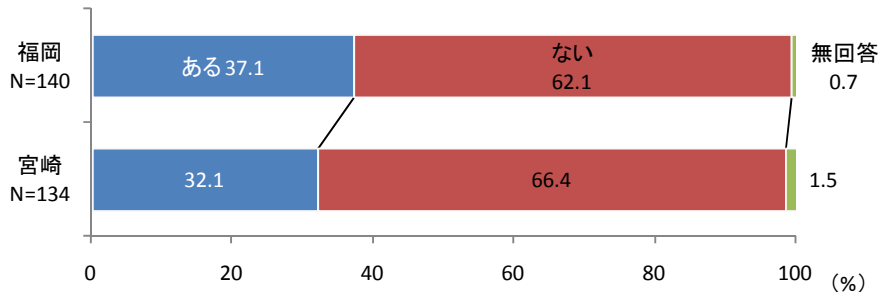
図表 参考-19 九州の魅力



### Q7. UJターンを考えたこと

UJターンを考えたことがある人は、福岡県出身者が37.1%、宮崎県出身者が32.1%で、福岡県出身者がやや高い。

図表 参考-20 UJターンの検討経験



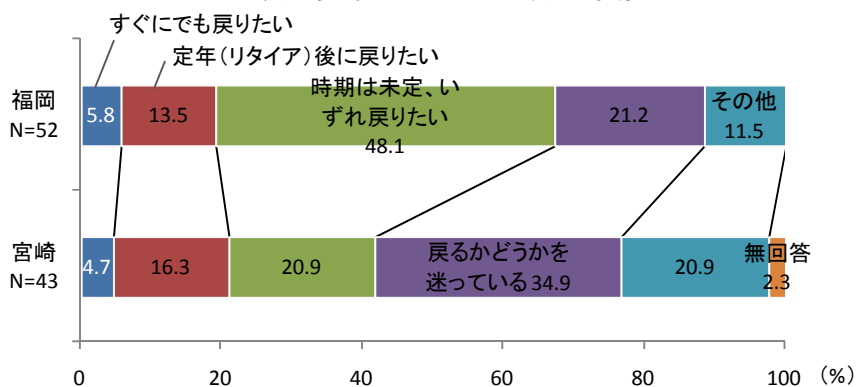
	福岡 (N=140)				宮崎 (N=134)			
	50代以下	60代	70歳以上	不明	50代以下	60代	70歳以上	不明
ある	64.7	37.7	19.2	0.0	40.0	35.0	29.4	25.0
ない	35.3	62.3	80.8	0.0	60.0	65.0	70.6	75.0
合計	100.0	100.0	100.0	0.0	100.0	100.0	100.0	100.0

### Q8. 九州へ戻る時期 (UJターンを考えたことがある人限定)

福岡県出身者は「時期は未定だが、いずれ戻りたい」が48.1%で最多。一方、宮崎県出身者は「戻るかどうかを迷っている」が34.9%で最多である。

「すぐにも戻りたい」は両県出身者とも5%前後、「定年(リタイア)後に戻りたい」は15%前後で、合わせて約20%である。

図表 参考-21 九州へ戻る時期



	福岡 (N=140)				宮崎 (N=134)			
	50代以下	60代	70歳以上	不明	50代以下	60代	70歳以上	不明
すぐにも戻りたい	9.1	5.0	0.0	0.0	12.5	7.1	0.0	0.0
定年(リタイア)後に戻りたい	27.3	5.0	0.0	0.0	62.5	7.1	5.3	0.0
時期は未定だが、いずれ戻りたい	54.5	45.0	40.0	0.0	0.0	28.6	21.1	100.0
戻るかどうかを迷っている	9.1	30.0	30.0	0.0	12.5	42.9	42.1	0.0
その他	0.0	15.0	30.0	0.0	12.5	14.3	31.6	0.0
合計	100.0	100.0	100.0	0.0	100.0	100.0	100.0	100.0



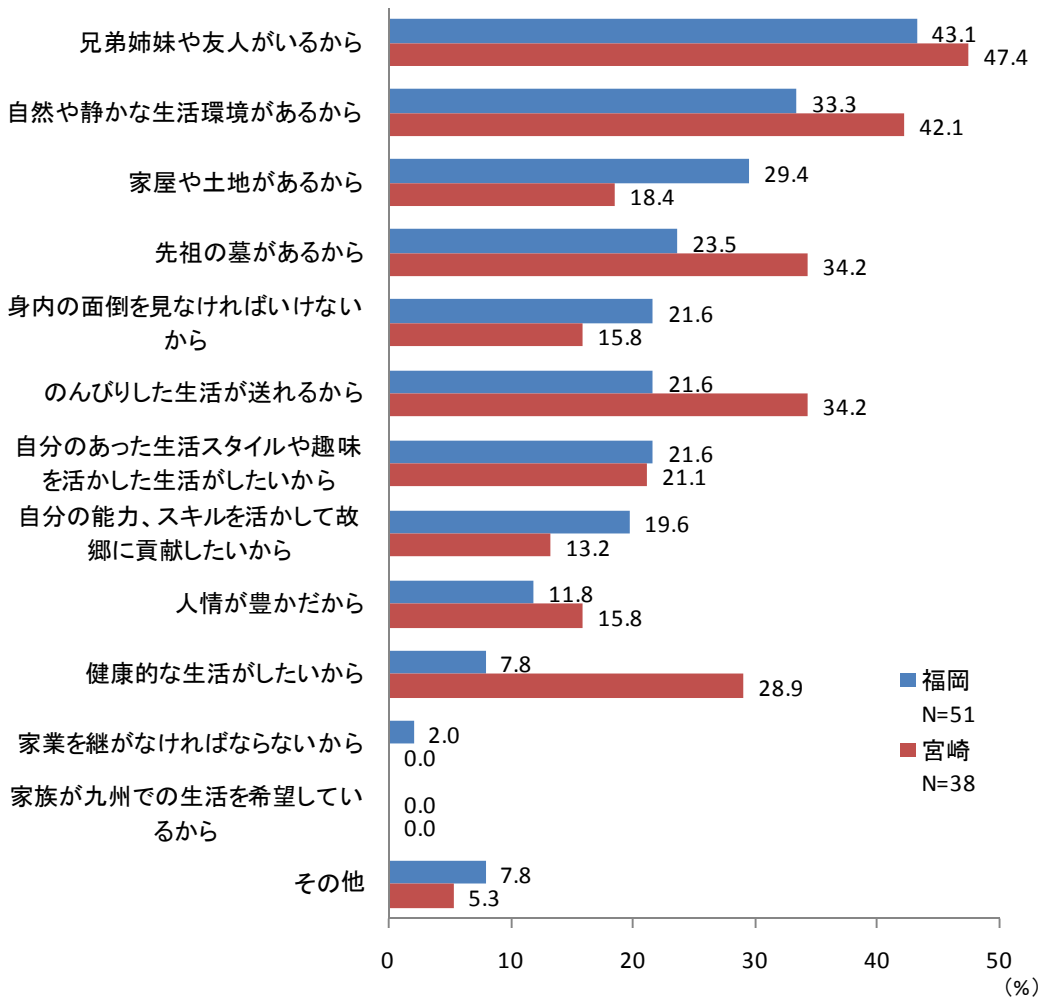
Q9. 九州へ戻りたい理由（UJターンを考えたことがある人限定、複数回答）

九州へ戻りたい理由は、両県出身者とも1位が「兄弟姉妹や友人がいるから」、2位が「自然や静かな生活環境があるから」であった。

両県出身者で差がある回答では、福岡県出身者が高いのが、「家屋や土地」、「身内の面倒」、「自分の能力、スキルを活かして故郷に貢献」である。一方、宮崎県出身者が高いのは、「先祖の墓」、「のんびりした生活」、「健康的な生活」である。

回答者の年齢層が比較的若い福岡県出身者の方が、「自分の能力やスキルを活かして故郷に貢献したい」とする割合が相対的に高く、年齢層が比較的高い宮崎県出身者は、悠々自適の生活を望んでいる。

図表 参考-22 九州へ戻りたい理由

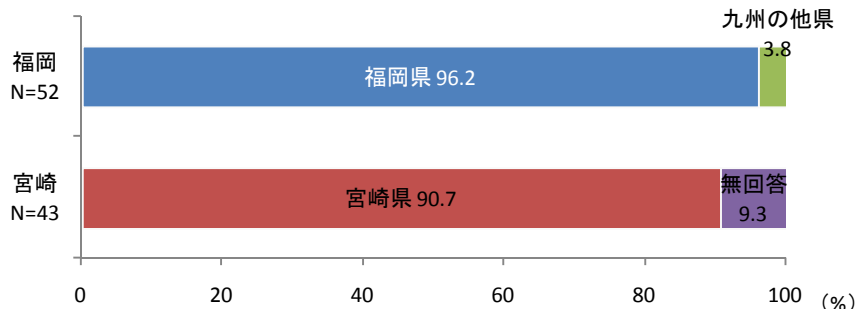


	福岡(N=140)				宮崎(N=134)			
	全体	50代以下	60代	70歳以上	全体	50代以下	60代	70歳以上
兄弟姉妹や友人がいるから	42.3	36.4	63.2	20.0	41.9	12.5	50.0	64.7
自然や静かな生活環境があるか	32.7	31.8	42.1	20.0	37.2	37.5	41.7	41.2
家屋や土地があるから	28.8	27.3	47.4	0.0	16.3	12.5	25.0	17.6
先祖の墓があるから	23.1	22.7	26.3	20.0	30.2	25.0	33.3	41.2
身内の面倒を見なければいけないから	21.2	36.4	15.8	0.0	14.0	25.0	25.0	5.9
のんびりした生活が送れるから	21.2	18.2	21.1	30.0	30.2	37.5	41.7	23.5
自分のあった生活スタイルや趣味を活かした生活がしたいから	21.2	22.7	21.1	20.0	18.6	25.0	25.0	17.6
自分の能力、スキルを活かして故郷に貢献したいから	19.2	27.3	10.5	20.0	11.6	25.0	8.3	11.8
人情が豊かだから	11.5	9.1	10.5	20.0	14.0	12.5	33.3	5.9
健康的な生活がしたいから	7.7	4.5	15.8	0.0	25.6	37.5	25.0	23.5
家業を継がなければならないか	1.9	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
家族が九州での生活を希望しているから	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	7.7	13.6	0.0	10.0	4.7	0.0	0.0	11.8
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

Q10. ①希望県（UJターンを考えたことがある人限定）

両県出身者とも、出身県へのUターン希望が圧倒的に高い。宮崎県出身者で福岡へのJターン希望は皆無であった。

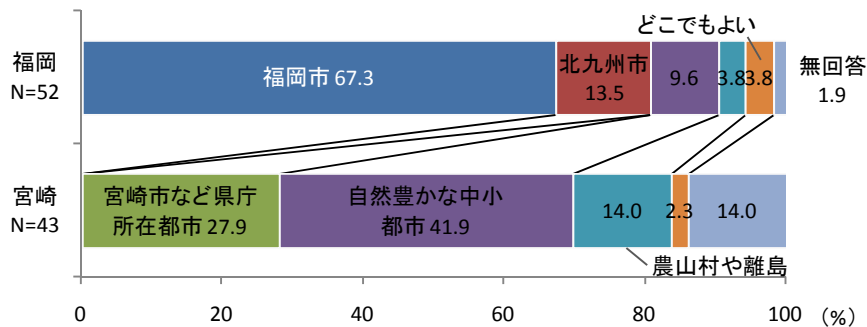
図表 参考-23 戻りたい県



Q10. ②希望地域（UJターンを考えたことがある人限定）

福岡県出身者は、「福岡市」が67.3%と突出しており、「北九州市」を含めて約8割が大都市を志向している。宮崎県出身者は、「自然豊かな中小都市」が41.9%と最多であり、「農山村や離島」14.0%を合わせて、55.9%が地方都市を志向している。

図表 参考-24 戻りたい地域



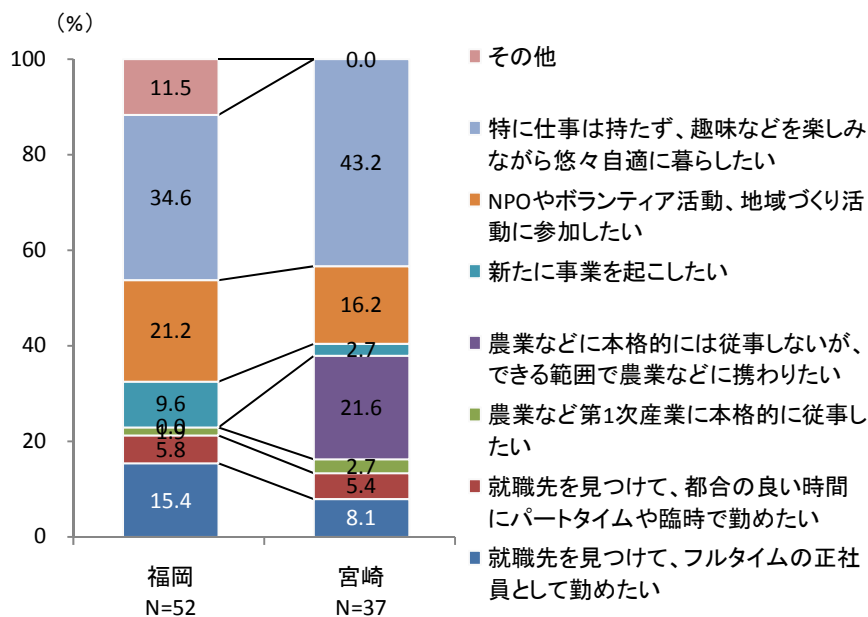
Q11. 九州に戻った後の生活スタイル（UJターンを考えたことがある人限定）

両県出身者とも最も多いのが、「特に仕事は持たず、趣味などを楽しみながら悠々自適に暮らしたい」（福岡県出身者 34.6%、宮崎県出身者 43.2%）。

働く意欲のある人は、相対的に福岡県出身者で高く、「就職先を見つけて、フルタイムの正社員として勤めたい」が 15.4%、「新たに事業を起こしたい」が 9.6%などであった。

一方、宮崎県出身者は「農業などに本格的には従事しないが、できる範囲で農業などに携わりたい」が 21.6%であり、「農業など第1次産業に本格的に従事したい」はわずか 2.7%であった。

図表 参考-25 戻った後の生活スタイル



Q12. 懸念や不安（UJ ターンを考えたことがある人限定、複数回答）

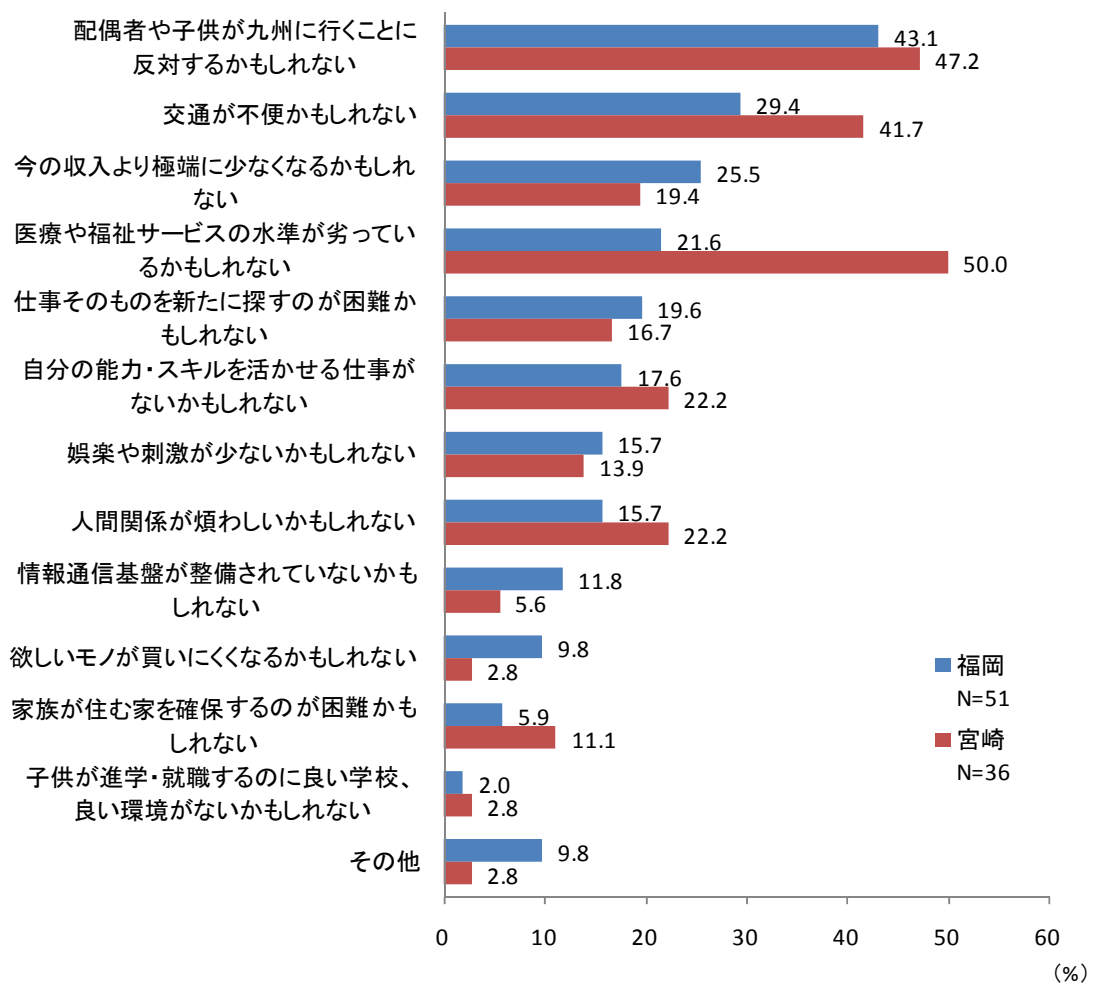
九州に戻る上での懸念や不安は、福岡県出身者は「配偶者や子供の反対」43.1%、「交通不便」29.4%、「収入の減少」25.5%の順である。

宮崎県出身者は、「医療・福祉サービス水準」50.0%、「配偶者や子供の反対」47.2%、「交通不便」41.7%の順である。

両県出身者で特に差が大きいのは、「医療・福祉サービス」である。宮崎県出身者では「医療・福祉サービス水準」を求める割合が、福岡県出身者の約2倍に達している。一方、福岡県出身者は、「収入の減少」、「娯楽や刺激」、「情報通信基盤」、「買い物の利便性」等が相対的に高い。

「配偶者や子供の反対」という家庭の事情以外では、多自然居住地域では何よりも「医療・福祉サービス」の不安解消が必要であり、それらが相対的に整備されている都市的地域では、収入や娯楽、情報など都市的生活水準において、首都圏とのと大きな差がないことが求められている。

図表 参考-26 懸念や不安

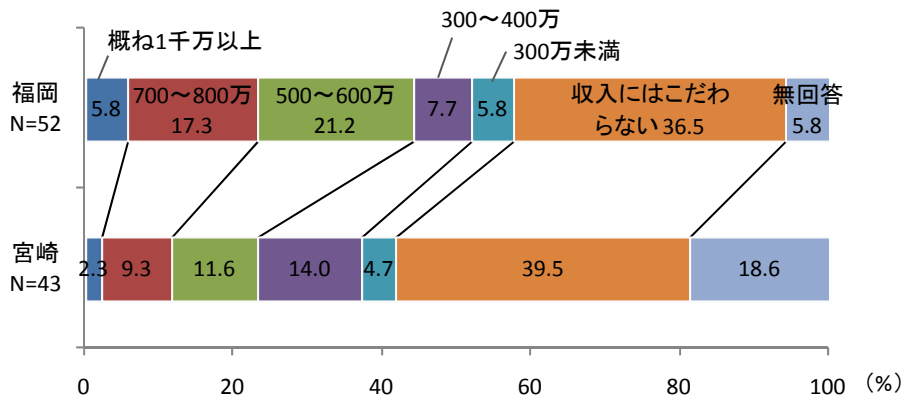


Q13. 必要な年収（UJターンを考えたことがある人限定）

「年収にはこだわらない」が、福岡県出身者 36.5%、宮崎県出身者 39.5%でともに最多だが、福岡県出身者の方が、相対的に高額の年収を望んでいる。

年齢別では、「概ね1千万円以上」必要とした人は、福岡県出身者、宮崎県出身者とも60代であり、恐らく会社役員等であると推測される。また50代で、「年収にはこだわらない」とする人は少数派であり、両県出身者とも最も多いのが「700～800万円」である。

図表 参考-27 必要な年収

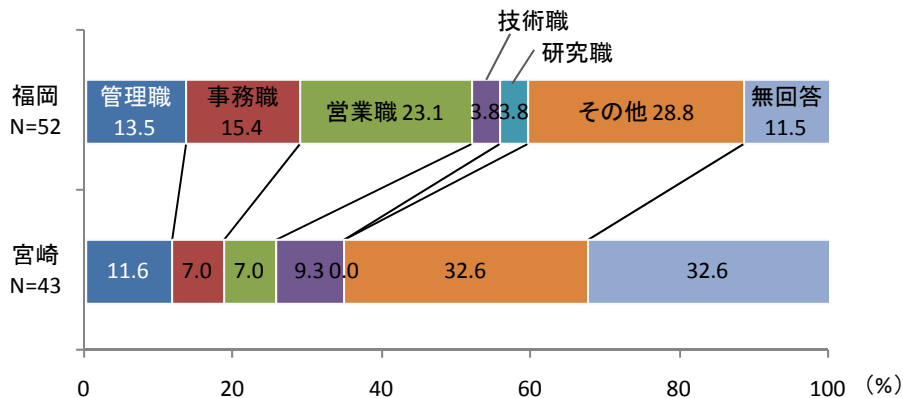


	福岡 (N=140)			宮崎 (N=134)		
	50代以下	60代	70歳以上	50代以下	60代	70歳以上
概ね1千万円以上	0.0	15.8	0.0	0.0	7.7	0.0
700～800万円	38.1	0.0	11.1	50.0	0.0	0.0
500～600万円	28.6	21.1	11.1	12.5	23.1	7.1
300～400万円	9.5	0.0	22.2	25.0	23.1	7.1
300万円未満	4.8	10.5	0.0	0.0	0.0	14.3
収入にはこだわらない	19.0	52.6	55.6	12.5	46.2	71.4
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

Q14. 希望する職種（UJターンを考えたことがある人限定）

福岡県出身者では、事務職や営業職の比率が相対的に高い。

図表 参考-28 希望する職種

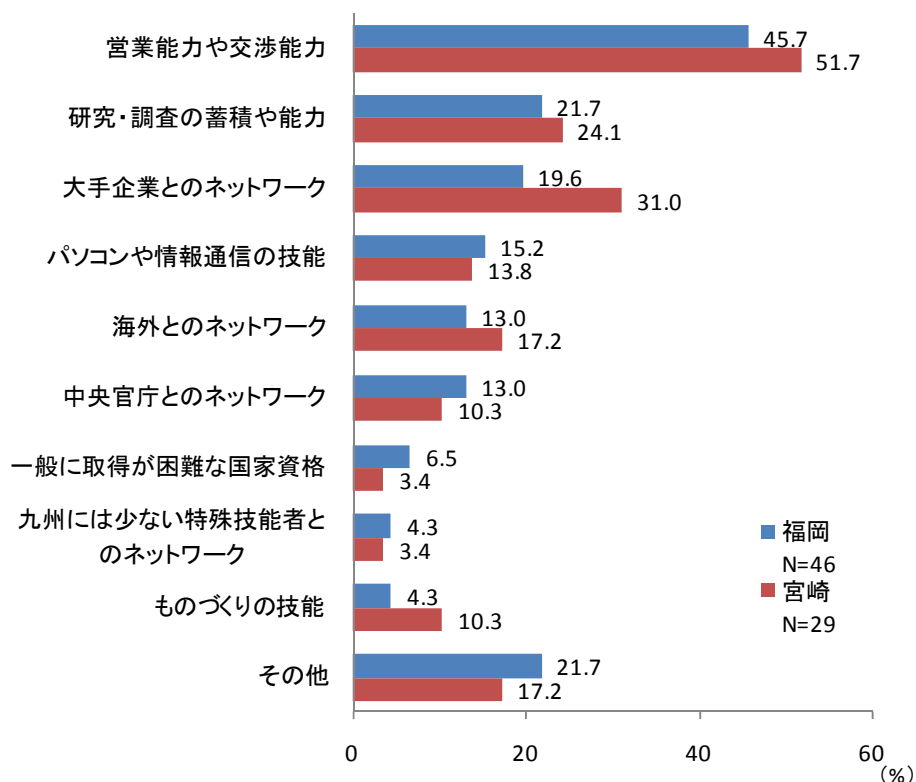


Q15. 活かせるスキル（UJターンを考えたことがある人限定、複数回答）

両県出身者とも「営業能力や交渉能力」が突出して高い。次いで「研究・調査の蓄積や能力」、「大手企業とのネットワーク」が20%前後で続いており、「海外とのネットワーク」も1割程度存在する。

福岡県出身者と宮崎県出身者として極端に大きな差がある項目は少ないが、「中央官庁とのネットワーク」や「取得困難な国家資格」、「特殊技能者とのネットワーク」など高度なスキルを持つ人材は、福岡県出身者がやや高い。

図表 参考-29 活かせるスキル

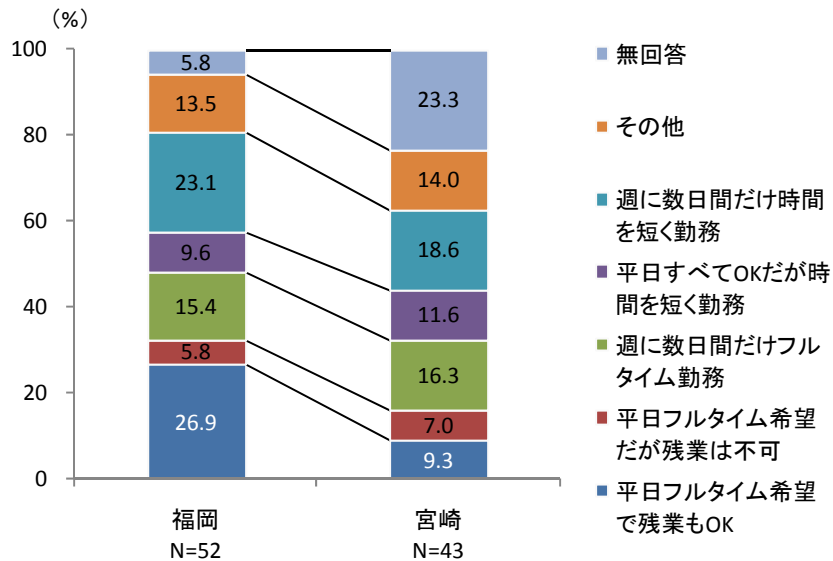


Q16. 働き方（UJターンを考えたことがある人限定）

福岡県出身者では、「平日フルタイム希望で残業もOK」が26.9%で最多である。次いで「週に数日間だけ時間を短く勤務」23.1%、「週に数日間だけフルタイム勤務」の順である。

宮崎県出身者では、「週に数日間だけ時間を短く勤務」が18.6%で最多である。次いで、「週に数日間だけフルタイム勤務」である。

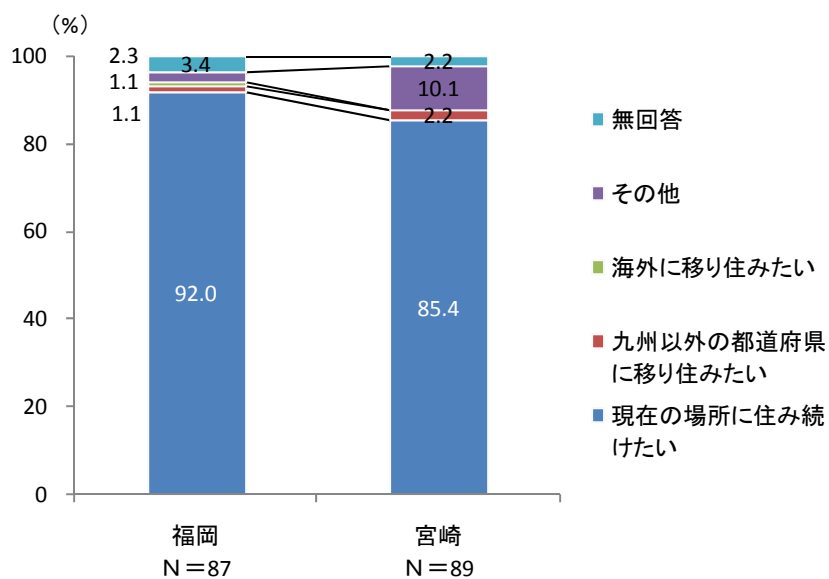
図表 参考-30 希望する働き方



Q17. これからの暮らし（UJターンを考えたことが“ない”人限定）

両県出身者とも「現在の場所に住み続けたい」人が8～9割で圧倒的多数を占めた。

図表 参考-31 これからの暮らし

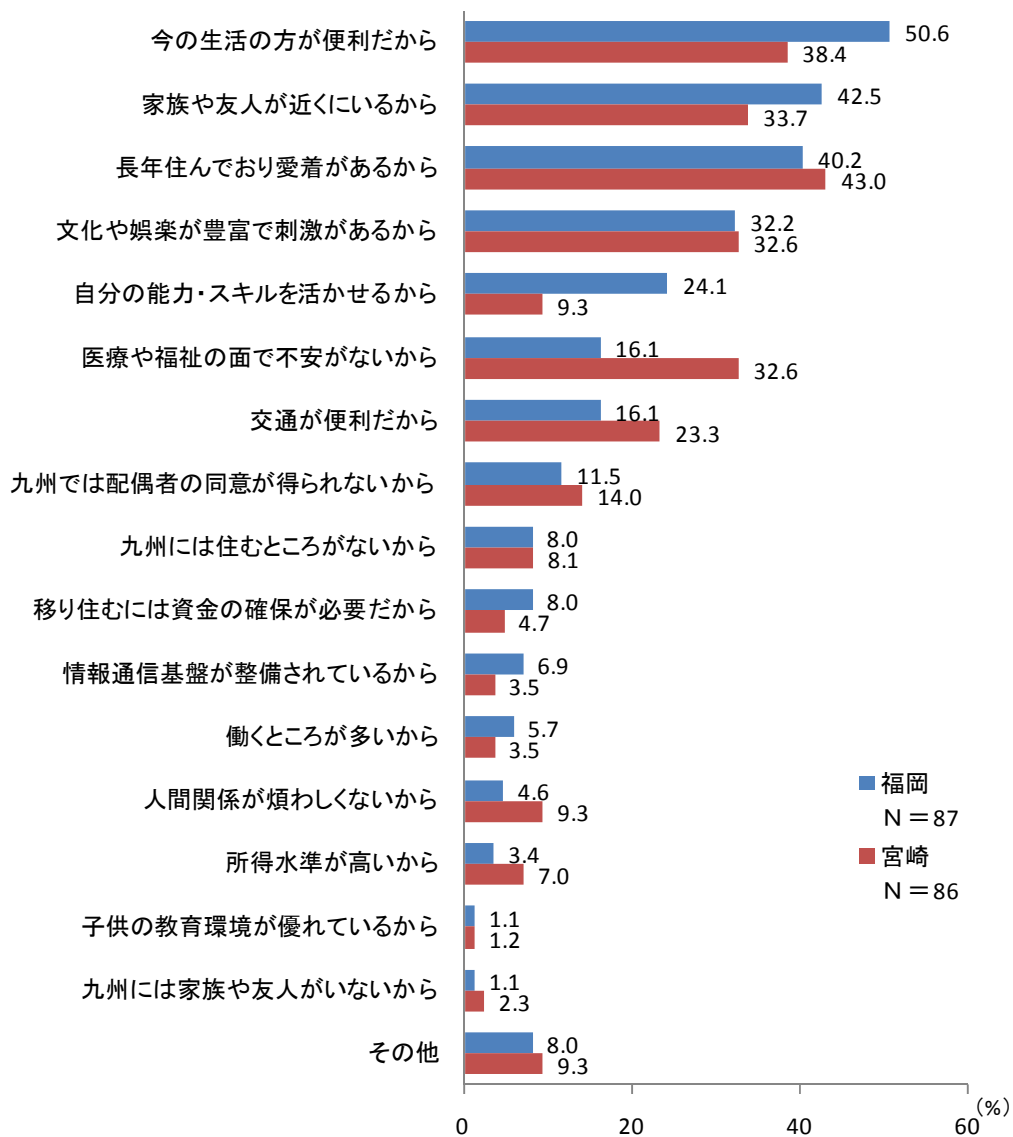


Q18. 理由（UJターンを考えたことが“ない”人限定、複数回答）

住み続けたい理由の上位は、両県出身者とも「今の生活の方が便利だから」、「家族や友人が近くにいるから」、「長年済んでおり愛着があるから」などが多い。

福岡県出身者と宮崎県出身者とで差が大きかったのは、「自分の能力・スキルを活かせるから」（福岡県出身者が高い）、「医療や福祉の面で不安がないから」（宮崎県出身者が高い）である。

図表 参考-32 UJターンを考えたことがない理由

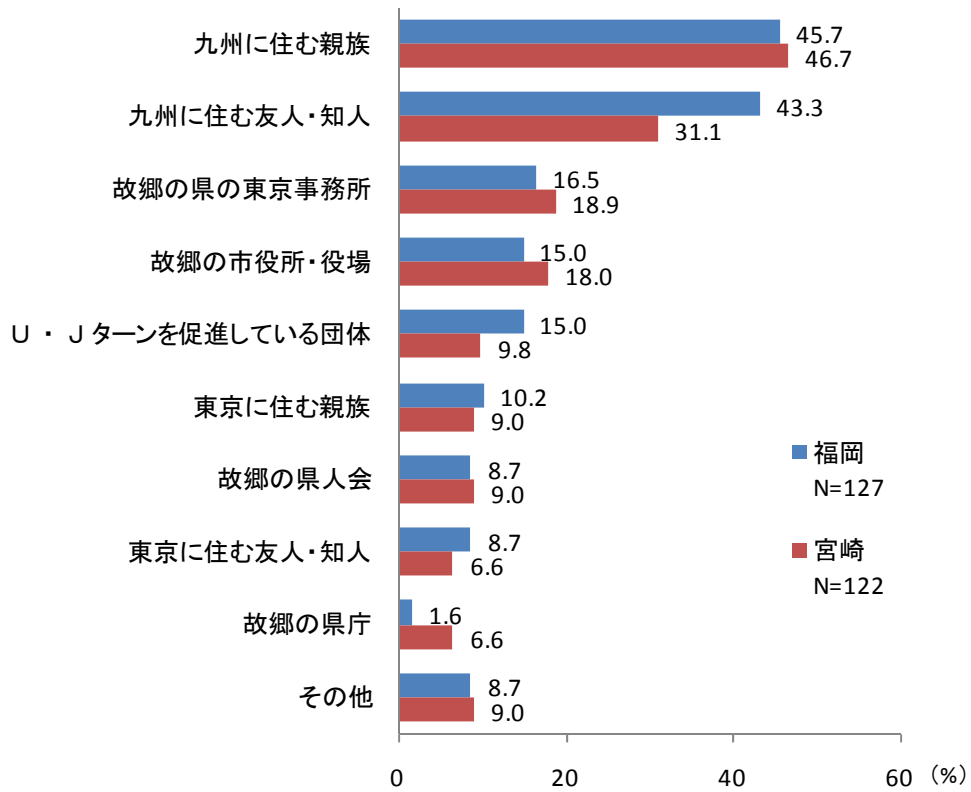




### Q19. UJ ターンの相談

UJ ターンの相談先は、「九州に住む親族」、「九州に住む友人・知人」が多く、個人的なネットワークでの相談が多い。

図表 参考-33 UJ ターンの相談先

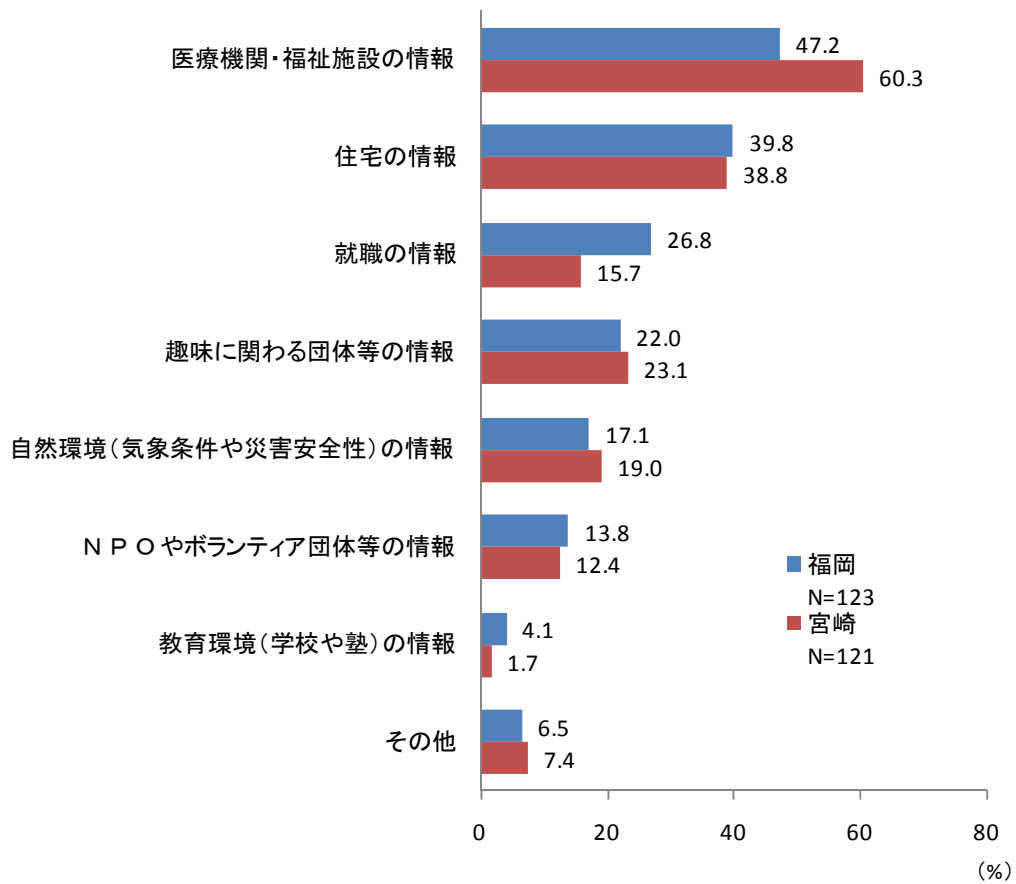


## Q20. 必要な情報

UJ ターンについて特に必要な情報は、両県出身者とも「医療機関・福祉施設の情報」が第1位、「住宅の情報」が第2位であった。但し、宮崎県出身者では「医療機関・福祉施設の情報」を求める比率が福岡県出身者より10ポイント以上も高い。

第3位は、福岡県出身者は「就職の情報」、宮崎県出身者は「趣味に関わる団体等の情報」である。

図表 参考-34 UJ ターンに必要な情報



### (3) 首都圏在住者アンケート結果のポイント

- 九州への UJ ターンを考えたことのある人は、福岡県出身者が 37.1%、宮崎県出身者が 32.1%で、両県出身者とも 3 割以上に達する。
- 九州へ戻りたい理由は、「兄弟姉妹の存在」や「自然や豊かな生活環境」が高い。
- UJ ターン後に活かせるスキルとして、両県出身者とも高かったのが「営業能力や交渉能力」である。
- 両県出身者とも出身県への Uターン希望が強く、本調査では宮崎県出身者の福岡への J ターン希望は無かった。そして、福岡県出身者は福岡市など大都市に戻り、フルタイムの正社員や起業する志向が相対的に高いのに対し、宮崎県出身者は自然豊かな地方都市に戻り、一部農業に携わりながらのんびり過ごすことを志向している。一口に九州への Uターンと言っても、帰郷後に志向する生活内容は、福岡県出身者と宮崎県出身者とでは異なっている。
- 九州に戻る上での懸念や不安は、特に宮崎県出身者で「医療・福祉サービス水準への不安」が高かった。九州全体で Uターンを促進する場合、医療や福祉の充実が 1 つのカギとなりそうだ。また、「配偶者や子どもの反対」や「交通不便」に対する不安も大きい。
- 九州に必要な年収は、全体では「こだわらない」が両県出身者とも 4 割近くだが、50 代以下に限定すると、「こだわらない」とする人は少なく、「700～800 万円」が最多である。九州で年収 700～800 万円を得られる再雇用先は少なく、収入ギャップの懸念も大きいと言える。
- なお、UJ ターンの相談先は、九州に住む親族や友人・知人が多く、個人的なネットワークでの相談が多い。

## 2 グループインタビュー

### (1) グループインタビューの概要

#### 〔目的〕

- ・「九州出身の首都圏在住者の U・J ターン意向アンケート」を深掘りするため、グループインタビューを実施した。
- ・首都圏に在住し、引き続き仕事を続けたいとの意向を持つシニアが、九州で自らが得意とする分野で仕事を続けながら社会とのつながりを持ちつつ、生き生きと暮らし、ひいては九州経済の活性化につながるような社会の実現を目指すためのヒントをさぐった。

〔日時〕 2009年1月28日(水) 19:00~21:00

〔場所〕 東京都港区赤坂 3-18-10 サンエム赤坂ビル内

〔議題〕 ①Uターンの希望、検討の有無

- ②Uターン希望の理由、Uターンできない理由と問題点
- ③知人、友人など周囲の U・J・I ターンの事例
- ④第二の人生を過ごす場所として九州はどのように見えるのか?
- ⑤U・J・I ターン促進の課題

〔参加者 (福岡県出身。高校時代の同級生。いずれも 50 歳)〕

- ① 製薬会社勤務の男性。東京都多摩市在住。妻は福岡県太宰府出身。子供は3人(大学生、高校生、中学生)。
- ② エンジニアリング会社勤務の男性。東京都大田区在住。妻は福岡市出身。子供は3人(高校生、中学生、4歳)。
- ③ 設計会社勤務の男性。横浜市在住。妻は北海道出身。
- ④ 情報通信会社勤務の男性。東京都在住。家族を福岡に残し、東京に単身赴任中。子供は2人(高校生、中学生)。
- ⑤ 主婦。東京都大田区在住。夫は福岡市出身。
- ⑥ 教育関連会社勤務の女性。東京都調布市在住。独身。

## (2) グループインタビューの意見の整理

### ① Uターン希望と問題点

グループインタビューの結果、多くの参加者が潜在的なUターン希望を持っていることがわかった。その主な理由は、「親の面倒」、「実家の面倒」、「九州（福岡）の暮らしやすさ」にある。

しかし、実際にはUターンを実現できないでいる。その主な理由は、「仕事」、「家族（子弟教育）」、「人間関係（友人）」にある。

つまり、首都圏のシニア（50歳代）は、九州に帰りたくても帰れない状況にあり、実際にUターンを決断するまでの強い動機にはなかなか至らないのが現実である。

### ② 東京からみた九州（福岡）の長所、短所

東京から見たときの九州（福岡）の長所として挙げられたものは、「都会と自然のバランス」、「通勤時間の短さ」、「食の豊かさ」、「物価の安さ」、「子育て環境の良さ」、「個性（アジア、歴史、風土）」などであった。こうした長所は、九州（福岡）出身者以外からも聞かれる意見であり、特に福岡は、単身赴任者にも人気があり、Iターン者もいる。

一方、短所は、「刺激の少なさ」、「情報の少なさ」、「匿名性を確保できないこと」が挙げられており、東京からみて、刺激や情報が少なく、匿名性を維持できないと見られている。ただ、「刺激」「情報」「匿名性」などを除けば、基本的に九州（福岡）の方が住み良いとする意見が優勢であった。

### ③ Uターン促進の課題

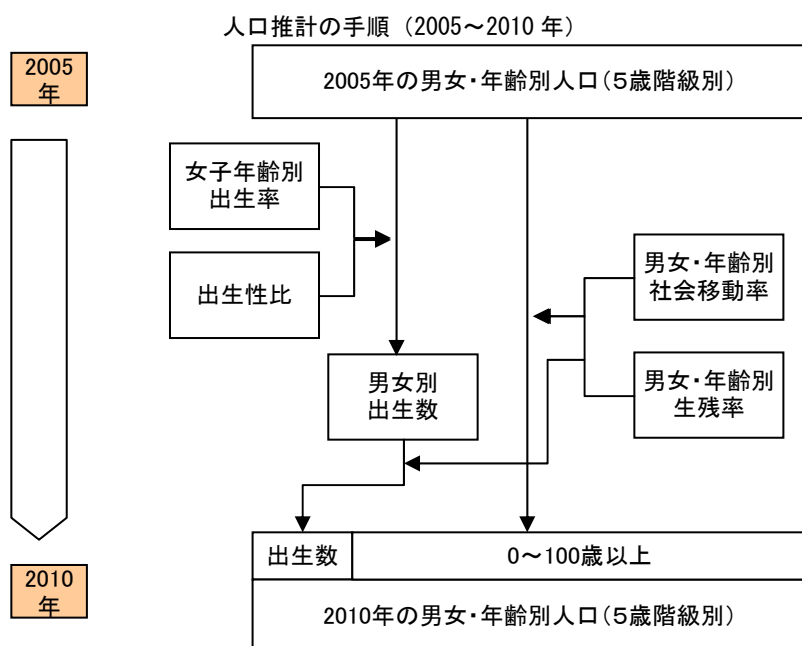
社会の第一線で働く50歳代、また子育て中の50歳代は、容易には東京から離れられない。自分や家族の意志だけでなく、会社やその業界も、情報収集や規制の関係で東京から離れられない。また、特に女性では、既に長く暮らしている東京で強固な人脈（友人、家族の友人）を形成しており、人脈の上でも東京から離れられない。

首都圏に暮らす50歳代を、すぐにUターンさせるのは極めて困難である。そのため、将来のUターンに期待して、徐々に東京から九州への比重を高めることが課題となる。

## (参考3) 人口の将来推計について

### 1. 推計の基本的考え方

人口の推計では、コーホート要因法を採用した。すなわち、男女年齢別人口（5歳階級別）を基準に、男女年齢別生残率、男女年齢別社会移動率、女子の年齢別出生率および出生性比を仮定して将来人口を求めている。作業手順は2005年のデータをもとに5年後の2010年の男女別年齢階級別人口を推計する（下図参照）。2010年の結果をもとに2015年の推計を行い、以下同様の作業を繰り返し、2030年までの人口を推計した。



### 2. 基準人口

基準人口は、2005年「国勢調査（第1次基本集計結果）」による2005年10月1日現在の男女年齢別人口（5歳階級）である。

なお、年齢不詳については、既知の年齢階級別構成比を用いて補正係数を作成し、各年齢別人口にその補正係数を乗じることで補正人口を作成した。

$$\text{補正係数} = \text{人口総数} / (\text{人口総数} - \text{年齢不詳})$$

### 3. 出生率

出生率は、厚生労働省の「人口動態統計」に基づき、2005年の県別・女子年齢別出生率が2030年まで続くと仮定した（次頁表参照）。女子年齢別出生率の算出については、日本人女子年齢別出生数を当該年齢の日本人女性人口で除して求めた。年齢階級の範囲

は15～49歳とし、出生数は人口動態統計、日本人女性人口は国勢調査を用いた。  
市町村の出生率は、県平均と同じとした。

女子年齢階級別出生率(2005年)

	全国	山口	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄
合計特殊出生率	1.27391	1.37841	1.26221	1.47802	1.44572	1.46123	1.40422	1.48396	1.48574	1.71774
15-19歳	0.02616	0.03343	0.02902	0.02730	0.02574	0.02792	0.02850	0.03244	0.02805	0.05320
20-24歳	0.18342	0.23690	0.18055	0.26190	0.23950	0.25543	0.24106	0.27273	0.24909	0.33145
25-29歳	0.42775	0.50231	0.41997	0.50156	0.50417	0.50474	0.48545	0.52526	0.51263	0.52194
30-34歳	0.42949	0.42730	0.42663	0.46683	0.46236	0.46238	0.44062	0.44250	0.46803	0.50147
35-39歳	0.18126	0.15849	0.17967	0.19871	0.18732	0.18164	0.18371	0.18791	0.19654	0.26151
40-44歳	0.02509	0.01954	0.02582	0.02119	0.02633	0.02814	0.02435	0.02223	0.03100	0.04674
45-49歳	0.00074	0.00045	0.00054	0.00052	0.00030	0.00097	0.00051	0.00088	0.00042	0.00142

資料)厚生労働省「人口動態統計」

#### 4. 生残率

生残率については、厚生労働省の「平成17年簡易生命表」の全国データをベースとしている。ただし、生残率は地域によって異なるため、「第19回生命表」(2000年)の全国値と「平成12年都道府県別生命表」の県別値との年齢階級別の格差率を用いて、全国のデータに乗ずることで、県別・年齢階級別・男女別生残率を算出した。

なお、90歳以上の生残率については、90歳以上の人口が95歳以上まで生き残る率で固定する。また、市町村の生残率は、県平均と同じとする。

#### 5. 出生性比

「人口動態統計」により、2005年の出生数男女比が2030年まで続き、市町村の出生性比は県平均と同じと仮定した。

#### 6. 社会移動率

社会移動率は、2000年から05年の男女別・年齢階級別の社会移動率が2030年まで続くと仮定する。社会移動率は県の推計をする場合は各県の社会移動率、市町村別に推計する場合は市町村別の社会移動率をそれぞれ算出した。

ただし、80歳以上の社会移動率については、地域によってブレが大きいため0とする。

- ・社会移動率=2000～05年の社会移動数/2000年の国調人口
- ・2000～05年の社会移動数=2005年国調人口-(2000年国調人口\*生残率)

#### 7. その他考慮点

- ・外国人と日本人の間での、出生率や出生性比、生残率等の違いは考慮しない。
- ・全国の人口は、社会移動率を0として推計する。つまり、外国との人口移動は勘案していない。

## (参考4) アンケート調査票

### シニア人材の就業意向並びに消費性向アンケート

当アンケートには、収入などについてあなたご自身のプライベートなことをお伺いする質問がございます。  
本件趣旨にご同意くださる方は、ご回答をお願いいたします。

回答をしないと判断された場合は、「回答をやめる」ボタン、あるいはブラウザを閉じて、アンケートを終了していただいて結構です。

当アンケートにより取得した回答結果につきましては、特定の個人が識別できないよう統計的に処理いたします。

下記アンケートにご協力をお願いいたします。

**Q1** あなたは現在、収入になる仕事をしていますか。  
【必須入力】

- 1. 仕事をしている
- 2. 仕事はしたいが、仕事をしていない
- 3. 仕事をしていない(仕事をしたいとも思っていない)

Q1で「仕事をしている」とお答えになった方にお伺いいたします。

**Q2** あなたが現在、仕事をしている主な理由はどれですか。  
あてはまるものをすべてお選びください。  
【必須入力】

- 1. 自分と家族の生活を維持するため
- 2. うるおいのある生活を送るため
- 3. 働いていることが健康上よいから
- 4. 生き甲斐、社会参加をしたいから
- 5. 頼まれた、時間に余裕があったから
- 6. その他
- 7. 特になし

Q1で「仕事はしたいが、仕事をしていない」とお答えになった方にお伺いいたします。

**Q3** あなたが現在、仕事をしていない主な理由はどれですか。  
あてはまるものをすべてお選びください。  
【必須入力】

- 1. 職種が希望する条件と合わなかった
- 2. 労働時間の条件が希望する条件と合わなかった
- 3. 賃金、報酬が希望する条件と合わなかった
- 4. 勤務地が遠かった
- 5. 条件はこだわらなかったが仕事が見つからなかった
- 6. 自身の健康上の理由から仕事に就くことが難しかった
- 7. 家族の健康上の理由(介護など)等から仕事に就くことが難しかった
- 8. その他
- 9. 特になし



Q1で「仕事をしていない(仕事をしたいとも思っていない)」とお答えになった方にお伺いいたします。

**Q4** あなたが現在、仕事をしていない主な理由はどれですか。  
あてはまるものをすべてお選びください。

【必須入力】

- 1. 年金や退職金での生活が可能だから
- 2. 財産収入があるから(家賃収入、株式等)
- 3. 配偶者や子どもの収入があるから
- 4. 仕事に縛られず趣味や社会活動に専念したいから
- 5. 家事等に専念したいから
- 6. 健康上の理由から
- 7. その他
- 8. 特になし

**Q5** 定年退職後の再就職について、あなたが希望する勤務形態としては、どれがもっとも近いですか。  
下記よりあてはまるものをひとつお選びください。

※現在定職についている方は、定年退職後に仕事やアルバイトをすると想定してお答えください。

※定年退職後再就職されている方も、再就職の勤務形態としてご希望のものをお選びください。

【必須入力】

- 1. フルタイム勤務(週5日以上かつ1日6時間以上の勤務)
- 2. 勤務日は週5日以上だが、1日の労働時間が6時間未満
- 3. 勤務日は週2~3日程度だが、1日の労働時間は6時間以上
- 4. 勤務日は週2~3日程度で、労働時間も6時間未満
- 5. 不定期勤務(必要に応じてその都度仕事を行う)
- 6. 定年退職後、再就職するつもりはない

**Q6** Q5で希望した勤務形態で働く場合、1か月あたりどのくらいの収入であれば働きますか。  
賞与も含めた1か月あたりの希望する収入をお答えください。

※現在定職についている方は、定年退職後に仕事やアルバイトをすると想定してお答えください。

※定年退職後再就職されている方も、再就職の収入としてご希望のものをお選びください。

【必須入力】

- 1. ~9.9万円
- 2. 10~14.9万円
- 3. 15~19.9万円
- 4. 20~24.9万円
- 5. 25~29.9万円
- 6. 30~34.9万円
- 7. 35~39.9万円
- 8. 40~44.9万円
- 9. 45~49.9万円
- 10. 50万円~

**Q7** 定年退職後の再就職について、あなたが希望する勤務時間帯は、次のうちどれがもっとも近いですか。  
あてはまるものをひとつお選びください。

※現在定職についている方は、定年退職後に仕事やアルバイトをすると想定してお答えください。

※定年退職後再就職されている方も、再就職の勤務時間帯としてご希望のものをお選びください。

【必須入力】

- 1. 昼間勤務(8~17時の時間帯)
- 2. 夜間勤務(17~23時の時間帯)
- 3. 深夜・早朝勤務(23~翌8時の時間帯)
- 4. 勤務時間帯はこだわらない

**Q8** 定年退職後の再就職について、あなたの希望する職種は次のうちどれですか。

あてはまるものをすべてお選びください。

※現在定職についている方は、定年退職後に仕事やアルバイトをすると想定してお答えください。

※定年退職後再就職されている方も、再就職の職種としてご希望のものをお選びください。

【必須入力】

- 1. 管理全般(支店長・工場長等)
- 2. 総務・企画
- 3. 経理・財務・予算
- 4. 人事・労務・教育
- 5. 広報・宣伝
- 6. 営業・販売・サービス
- 7. 資材・購買・物流
- 8. 生産技術・生産管理・品質管理
- 9. 製品開発・設計・デザイン
- 10. 研究・開発
- 11. 警備・施設管理
- 12. 製造・組立・加工
- 13. 運転業務
- 14. 農林水産業
- 15. その他
- 16. 職種はこだわらない

**Q9** 定年退職後の再就職について、あなたが仕事をするにあたって重視することはどれですか。

下記より、あてはまるものをすべてお選びください。

※現在定職についている方は、定年退職後に仕事やアルバイトをすると想定してお答えください。

【必須入力】

- 1. 賃金・収入
- 2. 勤務時間・休暇
- 3. やりがい
- 4. 自分の経験・能力を生かせること
- 5. 住んでいる場所の近くで働けること
- 6. 作業環境、労働環境
- 7. 勤務先のイメージのよさ
- 8. その他
- 9. 特になし

**Q10** あなたが仕事をしたいと思う年齢は、次のうちどれがもっとも近いですか。

※現在仕事をされていない方も理想とする年齢をお答えください。

【必須入力】

- 1. 60歳まで働きたい
- 2. 65歳まで働きたい
- 3. 70歳まで働きたい
- 4. 働けるうちは何歳まででも働きたい
- 5. できるだけ早くやめたい

**Q11** あなたは50歳を過ぎてから転職、新規就職しましたか。

【必須入力】

- 1. 転職、新規就職してはいない
- 2. 転職、新規就職した(若いときに就いていた仕事の経験を生かせる職種)
- 3. 転職、新規就職した(若いときに就いていた仕事の経験とは関係のない職種)

「Uターン」は地方で生まれ育った人が大都市などで働いた後に、故郷に戻って働くこと  
「タターン」は大都市などで働いていた人が故郷とは関係のない町に移り住むこと  
「Jターン」は地方で生まれ育った人が大都市などで働いた後に、故郷の近くに戻って働くこと

**Q12** あなたは、九州への「Uターン」、「タターン」、「Jターン」のいずれかの経験がありますか。  
**【必須入力】**

- 1. 10代・20代のときに「Uターン」、「タターン」、「Jターン」をした
- 2. 30代・40代のときに「Uターン」、「タターン」、「Jターン」をした
- 3. 50代を過ぎてから「Uターン」、「タターン」、「Jターン」をした
- 4. 「Uターン」、「タターン」、「Jターン」の経験はない

**Q13** あなたが、九州へ戻った、移り住んだ理由はどのようなものですか。  
あてはまるものをすべてお選びください。  
**【必須入力】**

- 1. 身内の面倒を見なければいけないから
- 2. 家業を継がなければならぬから
- 3. 家屋や土地があるから
- 4. 先祖の墓があるから
- 5. 兄弟姉妹や友人がいるから
- 6. 自然や静かな生活環境があるから
- 7. 人情が豊かだから
- 8. のんびりした生活が送れるから
- 9. 健康的な生活がしたいから
- 10. 家族が九州での生活を希望しているから
- 11. 自分のあった生活スタイルや趣味を活かした生活がしたいから
- 12. 自分の能力、スキルを活かして故郷に貢献したいから
- 13. 現在(当時)の職場から誘いがあったから
- 14. その他
- 15. 特になし

**Q14** あなたが、「九州へ戻る、移り住む前に不安に感じていたこと」と「九州へ戻ってから、移り住んでから不便に感じたこと」はありましたか。  
下記の中より、それぞれあてはまるものをすべてお選びください。  
**【必須入力】**

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	1 今の収入より極端に少なくなる	2 自分の能力・スキルを活かせる仕事がない	3 仕事そのものを新たに探すのが困難	4 配偶者や子供が九州に行くことに反対する	5 子供が進学・就職するのに良い学校、良い環境がない	6 家族が住む家を確保するのが困難	7 医療や福祉サービスの水準が劣っている	8 交通が不便	9 情報通信基盤が不備	10 娯楽や刺激が少ない	11 買い物不便	12 この中にはない
1. 「九州へ戻る、移り住む前に不安に感じていたこと」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2. 「九州へ戻ってから、移り住んでから不便に感じたこと」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

**Q15** 現在のあなたの勤務形態について、実際のものにもっとも近いものをひとつお選びください。  
※現在、休職・休業中の場合は、休職・休業前の勤務形態をお選びください。  
【必須入力】

- 1. フルタイム勤務(週5日以上かつ1日6時間以上の勤務)
- 2. 勤務日は週5日以上だが、1日の労働時間が6時間未満
- 3. 勤務日は週2～3日程度だが、1日の労働時間が6時間以上
- 4. 勤務日は週2～3日程度で、労働時間も6時間未満
- 5. 必要に応じてその都度仕事を行う(不定期勤務)

**Q16** 現在のあなたの勤務時間帯について、実際のものにもっとも近いものをひとつお選びください。  
※現在、休職・休業中の場合は、休職・休業前の勤務時間帯をお選びください。

【必須入力】

- 1. 昼間勤務(8～17時の時間帯)
- 2. 夜間勤務(17～23時の時間帯)
- 3. 深夜・早朝勤務(23～翌8時の時間帯)
- 4. 不規則勤務(例:シフトによって昼間勤務や夜勤になる)

**Q17** 現在のあなたの就いている職種は次のうちどれですか。  
あてはまるものをひとつお選びください。

※2つ以上の仕事を持っている場合は、主な仕事の職種をお選びください。  
※現在、休職・休業中の場合は、休職・休業前の職種をお選びください。

【必須入力】

- 1. 管理全般(支店長・工場長等)
- 2. 総務・企画
- 3. 経理・財務・予算
- 4. 人事・労務・教育
- 5. 広報・宣伝
- 6. 営業・販売・サービス
- 7. 資材・購買・物流
- 8. 生産技術・生産管理・品質管理
- 9. 製品開発・設計・デザイン
- 10. 研究・開発
- 11. 警備・施設管理
- 12. 製造・組立・加工
- 13. 運転業務
- 14. 農林水産業
- 15. その他

**Q18** あなたは、現在の仕事をどのような形で見つけられましたか。  
もっともあてはまるものをひとつお選びください。

【必須入力】

- 1. 若いとき(50歳より前)に就いた会社等への勤務を今も続けている
- 2. 勤務先の会社等で定年延長・再雇用された
- 3. 勤務先の会社等の関連企業へ出向や転籍の形で働いている
- 4. 勤務先の会社等から別の会社への再就職をあっせんされた
- 5. ハローワークなどの公的な人材紹介機関を利用し、自力で仕事を見つけた
- 6. 民間の人材派遣会社に登録して仕事をしている
- 7. 就職情報誌や求人広告などを頼りに、自力で仕事を見つけた
- 8. (これまでの仕事で縁があった)知人等の紹介で新たな仕事を見つけた
- 9. (仕事とは関係のない)知人等の紹介で新たな仕事を見つけた
- 10. 自分自身または知人と共同で事業を始めた
- 11. その他

**Q19** あなたは、現在の仕事や生活について、どの程度満足していますか。  
 それぞれあてはまるものをお選びください。  
**【必須入力】**

	1 満足	2 やや満足	3 普通	4 やや不満	5 不満
1. 賃金・収入	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 労働時間・休日	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 作業設備・労働環境	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 職場の人間関係	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5. 経験・能力の活用度	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6. 仕事の内容・やりがい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7. 余暇活動	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8. 生活全般	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

**Q20** あなたの1カ月あたりの収入は、どれくらいですか。  
 それぞれ項目別に、あてはまるものをお選びください。  
 ※収入がない項目については、「0円」の項目をお選びください。  
**【必須入力】**

	1 0円	2 1円～10万円未満	3 10万円～15万円未満	4 15万円～20万円未満	5 20万円～25万円未満	6 25万円～30万円未満	7 30万円～35万円未満	8 35万円～40万円未満	9 40万円～45万円未満	10 45万円～50万円未満	11 50万円以上
1. 給与(賞与含む)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 公的年金	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 他の収入(家賃、株式運用など)による収入	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 合計	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q21

現在のあなたの家計の消費について、お伺いいたします。項目別で1か月におよそいくらぐらい使いますか。それぞれ金額をご入力ください。

※小数点以下を記入される場合は、小数点第1位まで記入してください。

※費用が発生していない項目については、「0」とご入力ください。

※はっきりとご存知ない方も、おおよそのお答えで結構です。

【全て必須】

- 1.食費: 万円(半角数字)
- 2.光熱水費: 万円(半角数字)
- 3.通信費(電話、インターネット等): 万円(半角数字)
- 4.生活雑貨: 万円(半角数字)
- 5.電気製品: 万円(半角数字)
- 6.住宅費: 万円(半角数字)
- 7.教育費: 万円(半角数字)
- 8.医療費: 万円(半角数字)
- 9.その他福祉サービス: 万円(半角数字)
- 10.交通費: 万円(半角数字)
- 11.趣味や旅行などの娯楽: 万円(半角数字)
- 12.貯蓄: 万円(半角数字)
- 13.各種ローンの返済: 万円(半角数字)
- 14.その他: 万円(半角数字)

Q22

もし、現在働いて得た収入が得られなくなった場合、家計の消費はおよそ何%減らすことになると思いますか。それぞれあてはまるものをお選びください。

【必須入力】

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	100%	90%	80%	70%	60%	50%	40%	30%	20%	10%	0%
1. 食費	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 光熱水費	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 通信費(電話、インターネット等)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 生活雑貨	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5. 電気製品	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6. 住宅費	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7. 教育費	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8. 医療費	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9. その他福祉サービス	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10. 交通費	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
11. 趣味や旅行などの娯楽	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
12. 貯蓄	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
13. 各種ローンの返済	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
14. その他 <input type="text"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q1で「仕事をしていない」とお答えになった方にお伺いいたします。

**Q23** もし、仕事することによって収入が得られた場合、家計の消費はおよそ何%増えると思いますか。  
それぞれあてはまるものをお選びください。

【必須入力】

	1 0%	2 10%	3 20%	4 30%	5 40%	6 50%	7 60%	8 70%	9 80%	10 90%	11 100% 以上
1. 食費	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 光熱水費	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 通信費(電話、インターネット等)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 生活雑貨	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5. 電気製品	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6. 住宅費	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7. 教育費	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8. 医療費	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9. その他福祉サービス	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10. 交通費	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
11. 趣味や旅行などの娯楽	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
12. 貯蓄	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
13. 各種ローンの返済	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
14. その他 <input type="text"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

アンケートは以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。  
回答もれがないか確認し、よろしければ「送信」ボタンをクリックしてください。

送信

# 九州企業のシニア人材の雇用に関するアンケート

財団法人 九州経済調査協会 担当：能本、田代、大谷<sup>のもと</sup>

TEL：092-721-4907 FAX：092-716-4710

問1 貴社（貴事業所）についてお伺いします。

貴社の 名称			
貴社の 所在地	〒 —		
	TEL	— —	FAX — —
業種	1. 建設業 2. 製造業 3. 電気・ガス・熱供給・水道業 4. 情報通信業 5. 運輸業 6. 卸売・小売業 7. 金融・保険業 8. 不動産業 9. 飲食業・宿泊業 10. その他サービス業 11. その他（具体的に ）		
従業員数 （パート・ 派遣含む）	1. 1～29名 2. 30～49名 3. 50～99名 4. 100～299名 5. 300～499名 6. 500～999名 7. 1,000～4,999名 8. 5,000名以上		
記入者 ご芳名		所属 ・役職	

**貴社の定年制度、定年到達後の継続雇用の状況についてお伺いします。**

問2 貴社では定年制を実施していますか。

<p>1. 定年制を実施し、定年到達後の勤務延長制度や再雇用制度などの継続雇用を実施</p> <p>2. 定年制を実施しているが、継続雇用はない（問7へ）</p> <p>3. 定年制を実施していない（問5へ）</p>
--

注1)「勤務延長制度」とは定年年齢が設定されたまま、定年年齢に到達した人を退職させることなく引き続き雇用する制度  
注2)「再雇用制度」とは定年年齢に達した人をいったん退職させた後、再び雇用する制度

以下の問3～4は、問2で「1. 定年制を実施し、定年到達後の継続雇用を実施」と回答した方にお伺いします。

問3 定年到達後の継続雇用に向け、どのようなことを実施していますか。①～⑤のそれぞれの取り組みについて当てはまるもの1つを選んでください。

施策	実施している	検討中である	実施していない
① 継続雇用を促すための面談、セミナー等の実施	1	2	3
② 継続雇用後のポスト、仕事内容に合わせた研修、教育訓練など	1	2	3
③ 高年齢社員の健康状態の改善	1	2	3
④ 生涯設計セミナーの実施	1	2	3
⑤ その他	（具体的に： ）		



問 4 継続雇用実施についての課題は何ですか。あてはまるもの全てを選んでください。

1. 高年齢社員の仕事を自社内で確保するのが難しい	4. 継続雇用を希望する定年到達者が少ない
2. 高年齢者の活用にむけた環境整備が進まない	5. 継続雇用後の処遇の決定が難しい
3. 高年齢社員を活用するノウハウの蓄積がない	6. 継続雇用後の処遇の決定が難しい
7. 継続雇用するための措置について、労働組合・従業員代表等の理解がなかなか得られない	
8. 若・壮年層社員の士気・モチベーションが低下する	9. 人件費負担が増す
10. 生産性が低下する	11. その他（具体的に

**貴社の定年到達後の継続雇用、60歳以上の高年齢者雇用の状況についてお伺いします。**

問 5 定年到達後の継続雇用者、60歳以上の高年齢者の活用・キャリア・処遇に関してどのようなことを実施していますか？ ①～⑧のそれぞれの取り組みについて当てはまるもの1つを選んでください。

高年齢社員に対する取組	実施している	検討中である	実施していない
① 高年齢社員の体力に配慮した職務への配置	1	2	3
② 短時間勤務など、高年齢社員向けのシフト導入	1	2	3
③ 賃金体系の見直し	1	2	3
④ 高年齢社員に適した仕事の開発	1	2	3
⑤ 作業環境の改善（照明、機械設備、段差等）	1	2	3
⑥ マニュアル・作業指示書の改善	1	2	3
⑦ 高年齢社員の健康維持（高齢者向け健康診断など）	1	2	3
⑧ 新たに必要な知識・技術・技能を習得するための教育訓練、セミナーの実施	1	2	3
⑨ その他	（具体的に		

副問 5-1 上記設問で「④高年齢社員に適した仕事の開発」「⑤作業環境の改善」を実施していると回答した方にお伺いします。具体的にどのような仕事を開発していますか。

具体的に：（例：若い社員とのペア就労、技術・経営相談、若い社員の教育係、高齢者向けの商品開発 等）

問 6 継続雇用、60歳以上の高年齢者活用の効果はありましたか。あてはまるものを全て選んでください。

1. 高年齢者の技術指導、教育により若い社員の技能・技術が向上した	5. 管理職の人手不足を解消できた
2. 高年齢者の人脈やネットワークにより新たな取引先が出来た	6. 製造などの現場の人手不足を解消できた
3. 高年齢者が若手、中堅社員の相談役となることで職場の雰囲気よくなった	7. 人件費が削減できた
4. 新たな製品や経営手法の開発につながった	8. その他
9. 効果がなかった	

副問 6-1 問 6 で具体的な効果がありましたらご記入下さい。

--

**貴社の 50 歳以上の中途採用の状況についてお伺いします。(定年到達後の再雇用は除く)**

問 7 ここ 3 年間で 50 歳以上 (派遣社員を含む) の中途採用を行いましたか。

1. 中途採用を行った	2. 中途採用を行っていないが検討している (問 14 へ)
3. 中途採用を行っていない、今後も採用する予定はない (問 14 へ)	

問 8~13 は、上記設問で「1. 中途採用を行った」と回答した方にお伺いいたします。

問 8 中途採用を行った職種を全て選んでください。

1. 管理全般 (支店長・工場長等)	2. 総務・企画	3. 経理・財務・予算	
4. 人事・労務・教育	5. 広報・宣伝	6. 営業・販売・サービス	
7. 資材・購買・物流	8. 生産技術・生産管理・品質管理	9. 製品開発・設計・デザイン	
10. 研究・開発	11. 警備・施設管理	12. 製造・現業	13. 運転手
14. その他 (具体的に )			

問 9 50 歳以上の中途採用の社員をどのように募集しましたか。あてはまるものを全て選んでください。

1. ハローワーク、人材銀行 <sup>注3)</sup> など公的な人材紹介機関を利用	
2. 民間の人材紹介会社を利用	3. 取引先、関連会社などからの紹介 (同業種)
4. 取引先、関連会社などからの紹介 (異業種)	
5. その他 (具体的に : )	

注 3) 人材銀行とは、全国の主要都市の庁舎施設などに設置し、概ね 40 歳以上の管理的職業、専門的・技術的職業に従事してきた方を対象とした職業相談、職業紹介を行うほか、求人者に対する雇用相談を行う機関。

問 10 50 歳以上の中途採用のうち U・J ターン者はいますか。

1. 首都圏や海外勤務を経験した U・J ターン者を採用
2. 九州以外の地域で勤務経験のある U・J ターン者を採用 (1 をのぞく)
3. U・J ターン者は特に採用していない

副問 10-1 上記設問で「1. 首都圏や海外勤務を経験した U・J ターン者を採用」、「2.九州以外の地方からの U・J ターン者を採用」を回答した方に伺います。U・J ターン者を採用した効果はありましたか。あてはまるものを全て選んでください。

1. 首都圏や海外勤務の経験が豊富で新しい視点で仕事に取り組んでくれる
2. 前職でのキャリア、人脈が豊富で取引先の開拓につながる
3. 技術面・経験面等で自社に無いスキルを有している
4. 地元への愛着があるため、定年到達後も長期間の勤務が見込める
5. 地元とのつながりが深く、地元の人脈が豊富なため取引先の開拓につながる
6. その他 (具体的に : )

問 11 50 歳以上の中途採用の雇用形態であてはまるものを全て選んで下さい。

- |  |
|--|
| 1. 正社員    2. 嘱託・契約社員    3. 常用型の派遣社員<br>4. パート・アルバイト    5. その他（具体的に _____ ) |
|--|

問 12 50 歳以上の中途採用を雇用した効果はありましたか。あてはまるものを全て選んでください。

- |   |
|---|
| 1. 中途採用者の技術指導、教育により若い社員の技能・技術が向上した<br>2. 中途採用者の人脈やネットワークにより新たな取引先が出来た<br>3. 中途採用者が若手、中堅社員の相談役となり職場の雰囲気よくなった。<br>4. 新たな製品や経営手法の開発につながった    5. 管理職の人手不足を解消できた<br>6. 製造など現場の人手不足を解消できた    7. 人件費が削減できた<br>8. その他<br>9. 効果はなかった |
|---|

副問 12-1 上記設問で具体的な効果がありましたらご記入下さい。

--

問 13 50 歳以上の中途採用の定年到達後の継続雇用はどのようにお考えですか。あてはまるものを 1 つ選んでください。

- |  |
|--|
| 1. 定年到達後も継続雇用する予定で採用し、継続雇用後のポスト、仕事内容等も計画している<br>2. 定年到達後も継続雇用する予定で採用しているが、継続雇用後の処遇は未定<br>3. 当面の労働力として考えており、定年到達後の継続雇用は状況によって判断<br>4. 定年到達後の継続雇用は考えていない。<br>5. 採用したときに既に定年の年齢に達していた |
|--|

問 14 50 歳以上の中途採用についての課題は何ですか。あてはまるもの全てを選んでください。

- |   |
|---|
| 1. 中途採用者（高度人材）を活用するノウハウの蓄積がない<br>2. どのように中途採用の人材を探せばよいかわからない<br>3. 同年代社員の士気・モチベーションが低下する<br>4. 人件費負担が増す<br>5. 生産性が低下する<br>6. その他（具体的に _____ ) |
|---|

高年齢者、50 歳以上の中途採用の活用について、貴社独自の取り組みがございましたらご自由にご記入下さい。

--



※九州へのU・Jターンについておうかがいします。

(「Uターン」は故郷の町に戻ることに。「Jターン」は故郷に近い都市に戻ることを言います。)

Q7. 九州へのU・Jターンを考えたことがありますか (1つ選択)

- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| 1. ある (→Q8へお進み下さい) | 2. ない (→Q17へお進み下さい) |
|--------------------|---------------------|

※Q8～16は、Q7で「1. ある」を選択した方におうかがいします。

Q8. もし九州へ戻るとすれば、いつごろの時期を考えていますか? (1つ選択)

- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| 1. すぐにでも戻りたい       | 2. 定年(リタイア)後に戻りたい |
| 3. 時期は未定だが、いずれ戻りたい | 4. 戻るかどうかを迷っている   |
| 5. その他 ( )         |                   |

Q9. 九州へ戻りたい理由はどのようなものですか? (3つまで選択)

- |                                  |                        |
|----------------------------------|------------------------|
| 1. 身内の面倒を見なければいけないから             | 2. 家業を継がなければならないから     |
| 3. 家屋や土地があるから                    | 4. 先祖の墓があるから           |
| 5. 兄弟姉妹や友人がいるから                  | 6. 自然や静かな生活環境があるから     |
| 7. 人情が豊かだから                      | 8. のんびりした生活が送れるから      |
| 9. 健康的な生活がしたいから                  | 10. 家族が九州での生活を希望しているから |
| 11. 自分のあった生活スタイルや趣味を活かした生活がしたいから |                        |
| 12. 自分の能力、スキルを活かして故郷に貢献したいから     |                        |
| 13. その他 ( )                      |                        |

Q10. 九州に戻るとすれば、どこが良いですか? (①と②でそれぞれ1つ選択)

①希望県	1. 福岡県	2. 宮崎県	3. 九州の他県 ( ) 県)
②希望地域	1. 福岡市(及び周辺)	2. 北九州市(及び周辺)	3. 宮崎市など県庁所在都市
	4. 自然豊かな中小都市	5. 農山漁村や離島	6. どこでもよい

Q11. 九州に戻った後は、どのような生活スタイルを希望しますか? (1つ選択)

- |                                      |
|--------------------------------------|
| 1. 就職先を見つけて、フルタイムの正社員として勤めたい         |
| 2. 就職先を見つけて、都合の良い時間にパートタイムや臨時で勤めたい   |
| 3. 農業など第1次産業に本格的に従事したい               |
| 4. 農業などに本格的には従事しないが、できる範囲で農業などに携わりたい |
| 5. 新たに事業を起こしたい                       |
| 6. NPOやボランティア活動、地域づくり活動に参加したい        |
| 7. 特に仕事は持たず、趣味などを楽しみながら悠々自適に暮らしたい    |
| 8. その他 ( )                           |











## 地域に持続的な経済成長をもたらすための人材活用等に関する調査 報告書

---

平成 21 年 3 月発行

発 行： 経済産業省九州経済産業局総務企画部企画課  
〒812-8546 福岡市博多区博多駅東 2 丁目 11 番 1 号  
TEL：092-482-5414 FAX：092-482-5947

調査委託先： 財団法人 九州経済調査協会  
〒810-0041 福岡市中央区大名 1 丁目 9 番 48 号  
TEL：092-721-4907 FAX：092-716-4710

---





